



TMDU

TOKYO MEDICAL AND DENTAL UNIVERSITY

東京医科歯科大学 国際交流センター年報

年 報
平成 26 年度

東京医科歯科大学国際交流センター

目 次

平成26年度年報

はじめに	1
沿革	2
1. 国際交流推進事業	
1-1. 海外拠点支援事業	
1-1-1. チリ拠点	5
1-1-2. タイ拠点	19
1-1-3. ガーナ拠点	32
1-2. 国際交流協定関連業務	34
1-3. 第6回国際サマープログラム (ISP2014)	43
2. 教育活動	
2-1. 日本語教育 順天堂留学生の参加を含む	46
2-2. 補助金等事業	
2-2-1. スーパーグローバル大学創成支援事業	51
2-2-2. 経済社会の発展を牽引するグローバル人材育成支援事業	56
2-2-3. 大学の世界展開力強化事業	72
2-2-4. 東南アジアにおける医歯学教育研究拠点推進事業 -歯学教育の標準化を目指して-	79
2-2-5. 日本の医療国際展開促進事業 (日本式大腸がん検診システム普及プロジェクト)	83
3. 地域連携	
3-1. 市川市内の学校との交流	88
3-2. 千代田区内との学校の交流	89
4. 学内連携	
4-1. 学生支援・保健管理機構事務部学生支援課 留学生オリエンテーション インペリアルカレッジからの留学生へのオリエンテーション	90
4-2. 学務部入試課 ISP特別選抜	90
5. 教員紹介	91
資料	
資料1. 東京医科歯科大学・バンコク病院共催 家族の健康セミナー・歯科個別相談会概要	101
資料2. 留学生オリエンテーション	103
資料3. インペリアルカレッジからの交換留学生へのオリエンテーション	105

平成26年度
東京医科歯科大学
国際交流センター
年報

はじめに

国際交流センター長 森尾郁子

本学の国際交流・貢献については、吉澤靖之学長のリーダーシップの下、3つの海外拠点（ガーナ、チリ、タイ）の事業をさらに推進させる中で、チリ大学、チュラロンコーン大学大学院とのジョイント・ディグリーコースに関しては、設置に向けた具体的な進展があった。

平成24年度から4年間の事業として行っている特別経費プロジェクト「東南アジアにおける医歯学教育研究拠点推進事業」では、10月に東南アジア諸国連合（ASEAN）域内で歯科医師免許の許認可に関わる組織から代表者を招いて「歯学教育標準化委員会」を開催し、情報・意見交換を行った。その他補助金事業として、平成24年度より行っている「大学の世界展開力強化事業」（平成24年度～28年度）では、学生交流を中心とした事業が積極的に展開され、中間評価では高い評価をいただいた。「グローバル人材育成推進事業」（平成24年度～28年度）では、学生に限らず、職員の英語力強化の取組みも進み、平成26年度にはスーパーグローバル大学タイプAに採択されるなど、国際化に向けての動きが加速化している。

第6回目となる国際サマープログラム（ISP2014、平成26年8月25～28日）では、博士課程ISP特別選抜入学試験を実施してきたこともあり、国際サマープログラム参加者で本学大学院に入学した者の数が着実に増えている。本学の知名度向上、優秀な留学生獲得という目的に対して、一定の成果があがったことから、平成27年度からは「外国人留学生に対するオープンキャンパス」として、期間を延長し、日本人学生との交流を図るなどの新企画にて開催予定である。

平成28年度から始まる第3期中期目標・中期計画において学内の国際化をさらに推進するため、平成27年度内に当センターは「統合国際機構（仮称）」として改組予定である。これまで「国際交流センター」で蓄積したものを検証した上で、検証結果を十分に踏まえ新組織に引き継いでいきたい。

沿 革

国際交流センターは、平成12年4月1日に国立大学としては32番目、医歯学系大学として初めて発足した「留学生センター」を、平成21年4月1日に改組し、新たにスタートした。本学では、これまでも、多くの学術・学生交流協定が締結されてきたが、それらは各部局単位で実施されていたためトータルな情報把握が充分ではない点もあり、国際交流センターが、本学の国際交流を一括して管理することを始めた。

本学へ理解があり、母国の医療界で活躍している留学生との繋がり、本学にとって貴重な財産である。しかし、残念ながら帰国留学生との連絡が途絶えているケースがあるため、留学生に関するデータを一括管理し、彼らとの交流を継続させることによって、彼らを本学の国際化推進のサポーターと位置付け、彼らから本学の教育研究における課題を学び、教育研究のさらなる向上を図ることとした。

さらに、これからは留学生が来るのを待つだけではなく、世界中から優秀な人材を積極的に獲得することも必要である。そのため、平成21年度より国際サマープログラム（ISP）を開催し、本学に関心のある留学生を招聘するとともに渡日時に入試を行い、本学大学院に入学を希望する留学生を受け入れる取組みを実施している。留学前に十分な情報を与えられ留学してきた学生の満足度は高く、国際交流センターでは、事前の情報提供や適切な受入分野への橋渡し、留学中の相談サービス、留学後のフォローとさらに一貫した支援システムの構築を目指している。

平成22年12月には駿河台研究棟から1号館西4階に移転し、外国人留学生に対する日本語教育、本学の海外拠点の活動支援のほか、本学の国際交流に関する事業を推進している。

平成24年度には国際化拠点整備事業費補助金「大学の世界展開力強化事業」及び「グローバル人材育成推進事業」が採択され、当センター内にグローバルキャリア支援室を新たに設置するなど、事業推進の体制を整備し、国際交流活動を支援している。

平成26年度には、吉澤学長が就任され、国際交流・国際展開・国際協力の各担当理事が置かれた。また、「スーパーグローバル大学創成支援事業」（タイプA：トップ型）にも採択され、本学の国際化に対する支援体制をより一層充実させ、世界に通用する外国人学生及び日本人学生育成がさらに重要になってきているところである。

国際化に関する大学の中期目標・中期計画(平成22年度～27年度)

国際化に関する目標

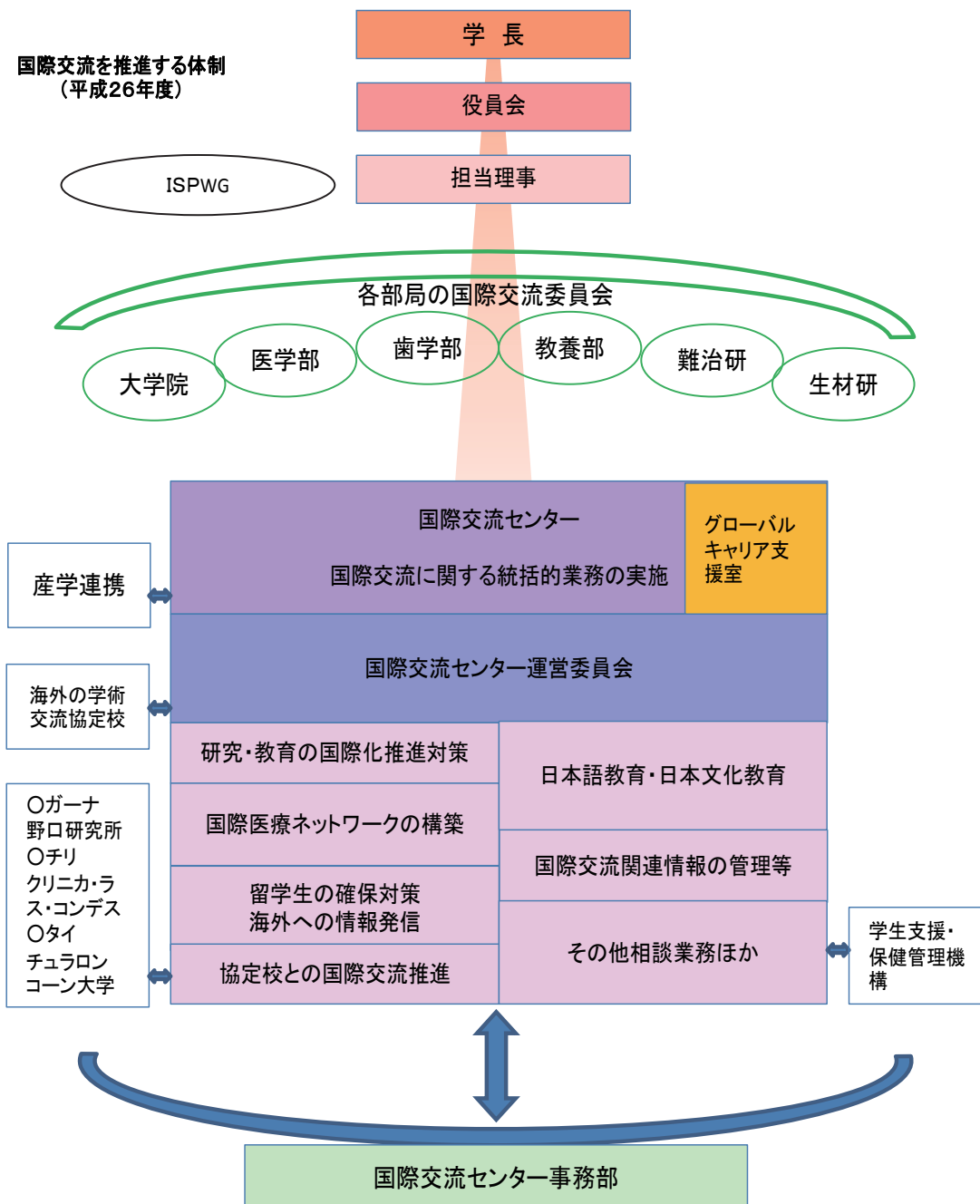
○国際化に関する基本方針

- ・国際化を推進するために学内環境の整備を行うとともに、教育、研究、医療を通じた国際貢献への取組みを推進する。

国際化に関する目標を達成するための措置

○国際化に関する計画

- ・国際交流センターを中心とした国際化を支援する学内体制を強化する。
- ・優秀な留学生確保のための活動を推進するとともに、秋季入学を拡充し、学習支援、経済的支援を充実する。
- ・国際教育研究拠点網を構築し、リカレント教育や共同研究の実施など国際貢献を推進する。
- ・医療の国際ネットワークを構築し、支援システムを整備するなど国際貢献を推進する。



国際交流センター所属教員

森尾郁子 (センター長)	吉田 丘	大北葉子	泉谷双蔵	David Richard Cannell	小野田勝次
福井雄二	石田雄之	竹原祥子	Sadr Alireza	米本和弘	
グローバルキャ リア支援室	高田和生 (支援室長)	Moross Janelle Renee	春山 怜	Carlson Rebecca Lynn	若林健二

国際交流センター運営委員会

森尾郁子 (センター長)	大北葉子	太田伸生	河野辰幸	川口陽子	秋田恵一 (H26.7.3～)
小野卓史	丸 光恵 (H26.9.30迄)	本田彰子 (H26.10.1～)	畔柳和代	川嶋健嗣	鏑田武志
吉田 丘					

グローバル人材育成推進事業推進委員会

田中雄二郎 (委員長)	高田和生 (副委員長)	稲瀬直彦	大久保功子	窪田哲朗	荒木孝二 (H26.12.14迄)
泰羅雅登 (H26.12.15～)	小野卓史	品田佳世子	鈴木哲也	中島ひかる	森尾郁子
高野健人	沢辺元司	Moross Janelle Renee	若林健二 (H26.12.14迄)	田上順次	山本正彦
吉田 丘					

大学の世界展開力強化事業運営委員会

田上順次 (委員長)	江石義信	森山啓司	川口陽子	河野辰幸	小野卓史
吉田 丘	竹原祥子	石田雄之			

第6回国際サマープログラム(ISP2014)ワーキンググループ

烏山 一	木村彰方	山岡昇司	小野卓史	小川佳宏 (座長)	吉田雅幸 (副座長)
和泉雄一	水口俊介	仁科博史	古川哲史	三林浩二	森尾郁子

東南アジア医歯学教育研究拠点推進事業委員会

田上順次 (委員長)	森山啓司	川口陽子	木下淳博	奈良信雄	森尾郁子
高田和生	江石義信	吉田 丘			

1. 国際交流推進事業

1-1. 海外拠点支援事業

1-1-1. チリ拠点

チリ拠点を中心にチリ・エクアドルに出張

①平成26年6月チリ派遣チーム報告は以下のとおり。

(1) 出張期間：2014年6月15日から20日までの2泊6日（ワーキング・デイとしての活動期間は6月16日～18日の3日間だが実働はまる2日間）

(2) 出張先：サンチャゴ市の Clinica Las Condes（CLC）、チリ大学本部

(3) 出張者：5名

浅原弘嗣 教授（システム発生・再生医学）

植竹宏之 准教授（応用腫瘍学講座）

下田弘二 室長（学長企画室）

土屋誠 課長補佐（学務部学務企画課）

吉田丘 特任教授兼事務部長（国際交流センター）

(4) 出張目的

ジョイント・ディグリー（JD）コース設置準備に関し、チリ大学医学部及び CLC 関係者と打合せを行う。

(5) 出張における主な面会者

Sr. FERNANDO（CLC 理事長）

Sr. GREVE（CLC CEO）

Dr. Marcos GOYCOOLEA（CLC CEO 代理 兼 CLC 理事会委員）

Dr. Rene TEJIAS（CLC 病院長）

Dr. Francisco LOPEZ（CLC 大腸外科部長）

Dr. Patricio BURDILES（チリ大学医学部教育部長兼 CLC 教育担当部長）

Dr. Juan Pablo TORRES（チリ大学医学部教育部長兼 CLC 教育担当課長）

Dr. Miguel O'RYAN Gallardo（チリ大学大学医学部大学院担当教授）

Dr. VIVALDI（チリ大学学長）

村上 特命全権大使（在チリ日本大使館）

野々村 一等書記官（在チリ日本大使館）

山口 二等書記官（在チリ日本大使館）

(6) 出張の成果（所感も含む）

(ア) JDコース設置に向けて協定書締結を含む今後のスケジュールについて

JDコースを2016年4月から開始すること、及び学生募集を文部科学省（以下、『文科省』。）認可後の2016年1月から行うことについて了解を取り付けることができた。（正確には、チリ大学弁護士に確認するとのことだが、オライアン教授の感覚では大丈夫だろうということだった。）

また、JDコース実施に向けて、カリキュラムの詰めや双方における制度の違いを含めてJDコース実施に向けた摺合せを行うことが必要であることも再確認することができた。特に日本側では、新たにJDコースを実施する際には、あらかじめ文科省に設置認可申請をして認可を得ることが前提となっており、その申請に必要な書類として『本学とチリ大学・CLCとの間でJDコース開設のための協定書』を作成する必要があることについてチリ側関係者に説明を行い、了解を取り付けることができた。また、右協定書の内容に関する詰めや締結までのスケジュールについて、2014年末までに双方がドラフトを提案し、2015年8月に締結できるように作業を進めることが確認できた。

なお、文科省がJDプログラム設置認可審査のポイント（『予定』の段階）としている内容を仮英訳したPROVISIONAL DRAFTをチリ側に手交済みであり、チリ大学弁護士と検討するとのこと。手交する際、文科省としてもJDコース設置認可については初めての経験であるため、現時点では『手探り』の状態で慎重に行っていることもあり、あくまでも今回手交したPROVISIONAL DRAFTは、その内容については更なる変更もあり得るので、右については誤解や手戻りの無いようにチリ側関係者に対して強調した。

(イ) JDコースのカリキュラムを含めた内容の詰めについて

日本側で求められている臨床トレーニングについて、3月時点では見学でよいということだったが、実技が必要だということや研修期間も半年又は1年ということになったりと、チリ側でも固まっていない様子がうかがえた。これについては、植竹准教授を中心に、荒木・長堀内視鏡チームと合同で検討してもらう必要がある。

また、論文指導についても、臨床トレーニングと同様に、日本の滞在期間について当初の2年から、半年又は1年と言ってきたりしており、固まっていない様子がうかがえた。いずれにしても、論文指導については双方の大学から主担当と副担当の教員を選び、合同で指導する必要があるため、LACRC（Latin American Collaborative Research Center、中南米教育研究拠点）で実施している大腸がん早期診断プロジェクト（略称、PRENEC）を中心にした共同研究体制を本学とLACRCとチリの3者で急ぎ検討するとともに、前回までに提示した広範な教員リストは見直す必要がある。

（チリ側は、PhDより、Subspecialtyのほうが大事のようだった。）

(ウ) 日本大使館訪問

CLCやチリ大学関係者との打合せの後に、在チリ日本大使館に出向き、これまでのJDコース設置準備状況について報告すると共に、村上大使に対して今後のご支援やご指導についてお願いしたところ、同大使からは、これまでの進捗状況を確認された上で、日本大使館としても本学が企画するJDコースの開設について、必要に応じてできる限りの協力や支援をしていきたい旨のお言葉をいただくことができた。

また、2009年11月（前々バチェレ政権下）及び2010年1月（前ピニャール政権下）に、CLC及びチリ保健省との三者で合意締結した協定書に基づいて行われてきた大腸がんスクリーニングプロジェクトについては、本年春に行われた政権交代によって保健省大臣を含めてこれまで同プロジェクトに関係してきた担当者が全て替わり、本大腸がんスクリーニングプロジェクトの実施に支障が出始めていることについて縷々説明することができた。村上大使も、政権交代の後における大腸がんスクリーニングプロジェクトの実施や進捗について懸念を持たれていたことから、本チームの説明により、機会のあるごとに新政権下の保健省大臣や保健省担当者に対し、これまでと同様に円滑にプロジェクトが実施できるよう働きかけていきたい旨のお言葉をいただくことができた。

(エ) 保健省訪問

JDコースの前提である大腸がんスクリーニングプロジェクトについて、18日午前中に保健省訪問が予定されていたが、前日17日遅くになって、急遽、保健大臣がバチェレ大統領に呼び出され、結果として本チームがサンチャゴ滞在中に面会することはできなくなった。その後の経過としては、翌19日11時に保健大臣とのアポイントメントが取れた由であるが、この結果について注目すべきであると思われる。本面会には、村上大使も出席し、日本政府の立場から、保健大臣に対してこれまでの保健省の方針通りに適宜対応するよう要請していただく予定である。

JDコースの前提である大腸がんスクリーニングプロジェクトについては、政権が替わった後の保健省の理解が全くなり、この8月に予定されていた右プロジェクトのための更新協定書のドラフト作成手続きが凍結され、結果として8月の協定書署名は不可能となってしまっている状況になっている。本面会は、これを受けて、これまで保健省が推進してきた本プロジェクトについて理解を求めるものであった。

もともと、本プロジェクトは、現政権のバチェレ大統領が前々政権に大統領を務めていた時代から開始されているものであり、右について保健省としてこれまでと変わらずに支援することについて村上大使から申し入れをしていただくことは、大腸がんスクリーニングプロジェクトにとってもJDコース実

施にとっても極めて重要なことであると思われる。

(オ) チリ大新学長表敬訪問

サンチャゴを離れる18日の午前中に、新たにチリ大学長に選ばれたビバルディ学長に、チリ大学本部において面会することができた。ビバルディ新学長は前のチリ大学副医学部長であり、数年前に京都で学会の帰りに本学に立ち寄り大山前学長に表敬訪問を行っていることや、本学のプロセメ学生がチリ大学医学部受け入れについてご尽力をいただいたこと、副医学部長時代にも本学派遣チームの表敬を受けていただいたこと等に鑑み、実現に至った。今後のJDコースの確実な実施に向けてビバルディ新学長だけでなく、チリ大学医学部関係者に対して、今後の協力や交流について改めてお願いをすることができた。ビバルディ新学長も我々の表敬訪問を受けて、本学が係っている大腸がんスクリーニングプロジェクトやプロセメ学生派遣やJDコースの実施については高く評価をしており、本学とチリ大学との協力や交流については今後ともできる限りのことを学長として行いたい旨のお言葉をいただいたことは極めて意義のあることと思われた。本学関係者がチリ大学長を表敬訪問することができたのは今回が初めてのことであり、今後のチリ大学と本学の円滑な協力体制を構築する意味でも大きな意味を持つと思われる。

(7) 出張の日程

6月15日	日曜日	14時35分	AF273便にて東京/成田発
		20時10分	パリ着
		23時20分	AF406便にてパリ発
6月16日	月曜日	07時55分	サンチャゴ着
		11時00分	LACRC派遣教員と日程に関し打合せ
		19時00分	プロセメ学生6名と打合せ
6月17日	火曜日	08時30分	CLCにて理事長及びCEO等と面会
		09時00分	JDコース設置準備に向けた打合せ
		12時00分	昼食
		16時00分	日本大使館表敬訪問
6月18日	水曜日	10時00分	チリ大学学長他との面談
		11時30分	空港へ向けて出発
		15時35分	AF401便にてサンチャゴ発
6月19日	木曜日	11時25分	パリ着
		13時40分	AF276便にてパリ発
6月20日	金曜日	08時35分	東京/成田着

②平成26年8月チリ・エクアドル派遣チーム報告は以下のとおり。

(1) 出張期間：平成26年8月9日から8月21日まで

(2) 出張先：チリ国サンチャゴ市のClinica Las Condes (CLC)、
チリ大学本部（医学部）、保健省、
保健省直轄国立サンボルハ病院
エクアドル国キト市のナンジャラ病院、保健省

(3) 出張者：15名

東京からの出張者

吉澤靖之 学長

近藤弘 副学長（事務総括担当）

山本正彦 学務部長 以上3名は8月9日から18日まで
チリ国のみ

江石義信 医学部長

河野辰幸 国際担当副医学部長兼チリ拠点運営管理者

北川昌伸 教授（包括病理学）

小嶋一幸 教授（胃外科）

植竹宏之 准教授（応用腫瘍学）

荒木昭博 講師（消化器内科）

森尾郁子 教授 国際交流センター長

吉田丘 国際交流センター事務部長兼特任教授

福井美子 通訳 以上9名はエクアドルを含み8月9日から21日まで

チリ拠点からエクアドルへ出張者

河内洋 講師

岡田卓也 助教

小林真季 助教

(4) 主な面会者

チリ国

村上秀徳 特命全権大使（在チリ日本大使館）

伊藤高 支所長（JICAチリ支所）

8/11(月) 11:00 国立サン・ボルハ・アリアラン病院
日智消化器病院研究所

Dr. Alfonso JORQUERA（病院長）

Dr. Ricardo ESTELA（研究所長）

Dr. Roberto SEGOVIA（研究所次長）

Dr. Juan Pablo ROBLEZ (医師)

Yanitza FUENTES (看護師)

8/12(火) 17:00 CLCにてジョイント・ディグリー (JD) に関する協議

Dr. Patricio BURDILES (クリニカ・ラス・コンデス学術部長)

Dr. Juan Pablo TORRES (クリニカ・ラス・コンデス研究次長)

Dr. Miguel O'RYAN Gallardo (チリ大学教授)

8/13(水) 10:00 チリ大学附属病院ホセ・ホアキン・アギーレ病院

Dr. Italo BRAGHETTO (チリ大学外科主任)

Gonzalo CARDENIL (チリ大学胸部外科部主任)

Dr. José M CLAVERO (チリ大学胸部外科)

Dr. J. Gonzalo FERNANDEZ (チリ大学外科医)

Dra. Paula BARCOS (チリ大学呼吸器専門医)

Dra. Laura MENDOZA (チリ大学呼吸器専門医)

Dr. Mauricio RUIZ (チリ大学呼吸器専門医)

Dr. Javier BRAUM B. (チリ大学医師)

15:00 チリ大学表敬

Dr. Ennio VIVALDI (チリ大学学長)

Dr. Manuel KUKULJAN (チリ大学医学部長)

Dr. Miguel O'RYAN Gallardo (チリ大学研究開発副学長)

20:00 CLC招待夕食会

Fernando CAÑAS (CLC理事長)

Dr. Marcos GOYCOOLEA (CLC理事)

Dr. Erwin BUCKEL (CLC院長)

Gonzalo GREBE (CLC CEO)

Dr. Francisco LOPEZ (CLC医師)

8/14 (木) 8:15 保健省表敬

Dr. Jaime BURROWS (保健省公衆衛生副大臣)

Dr. Daniel SOTO (保健省官房長公衆衛生次官)

Dr. Pedro CROCCO (保健省公衆衛生次官室疾病予防管理課長)

10:00 CLC (クリニカ・ラス・コンデス)

Fernando CAÑAS (CLC理事長)

Dr. Marcos GOYCOOLEA (CLC理事)

Dr. Jorge LARACH (CLC理事)

Dr. Erwin BUCKEL (CLC院長)
Dr. Francisco LOPEZ (CLC医師)

エクアドル共和国
小瀧 特命全権大使 (在エクアドル日本大使館)

8/16(土) 20:00 アレクサンドラ・モンタルボ医師夫妻主催夕食会
Dra. Alexandra MONTALVO (パブロ・アルトゥーロ・スアレス病院、保健省、診断支援コーディネータ、癌医療技術者)
Dra. Biviana PAREDES (スル病院、保健省、癌医療技術者、腫瘍学専門医)
Dr. Ricardo MEJÍA (パブロ・アルトゥーロ・スアレス病院、消化器内科内視鏡医)
Gabriela PENA (パブロ・アルトゥーロ・スアレス病院組織細胞学者)
Francisco ALVARADO Norillo (パブロ・アルトゥーロ・スアレス病院臨床検査技師)
Jiyee Karen Vam AGUILAR (パブロ・アルトゥーロ・スアレス病院秘書)

8/17(日) キト市内視察
Dra. Alexandra MONTALVO (パブロ・アルトゥーロ・スアレス病院、保健省、診断支援コーディネータ、癌医療技術者)
Dr. Ricardo MEJÍA (パブロ・アルトゥーロ・スアレス病院、消化器内科内視鏡医)
Gabriela PENA (パブロ・アルトゥーロ・スアレス病院組織細胞学者)

16:00 パブロ・アルトゥーロ・スアレス病院視察
Dra. Catalina VACA (パブロ・アルトゥーロ・スアレス病院臨床検査室病理学者)

8/18(月) 8:00 国際シンポジウム
Dr. Carlos TUMBACO
(Director Nacional de Estrategia de Prevención y Control:
保健省予防管理戦略局長)
Dr. Francisco VALLEJO
(Subsecretario Nacional de Vigilancia de Salud Pública:
保健省公衆衛生監視次官)
Dra. Alexandra MONTALVO

(パブロ・アルトゥーロ・スアレス病院、保健省、診断支援コーディネータ、
癌医療技術者)

Dr. Glubis ZANZZI

(Gerente del Hospital Pablo Arturo Suárez:

パブロ・アルトゥーロ・スアレス病院院長)

Dra. Comandacha Cumandá CHAFUELÁN (エクアドル中央大学病理学者)

Edith Abarca ORTIZ (保健省広報担当)

8/19(火) 9:15 保健省 (Ministerio de Salud Pública)

Dr. Carlos TUMBACO (保健省公衆衛生監視次官代理)

Dra. Alexandra MONTALVO

(Técnica Cáncer, Dirección Nacional de Estrategia:

保健省戦略局癌医療技術者)

Dra. Biviana PAREDES (保健省戦略局癌医療技術者、腫瘍学専門医)

Dr. Luis VEGA (保健省戦略局癌医療技術者)

Luciana GARCÍA

(Analista de Cooperación Internacional:

保健省国際協力アナリスト、アジア担当)

Edith Abarca ORTIZ (保健省広報担当)

(5) 出張目的

チリ拠点を中心に行うJDコース設置準備に関し、チリ大学医学部及びCLC
関係者との打合せ並びに関係者のENDOSURへの参加 (講演・討論)。

エクアドルにおける国際シンポジウム参加。

(6) 報告事項

(ア) JDコース設置に向けて今後のスケジュールと協定書の締結について

JDコースは2016年度4月から開始することについて再確認を行うことができたが、同コース開講についてチリ側は2016年3月を主張しており、右については今後双方で摺合せをしていく必要があると思われる。また、カリキュラムの詰めや双方における制度の違いを再確認すると共にJDコース実施に向けた摺合せを更に行うことが必要であることも確認することができた。特に日本側では、新たに開始するJDコースを実施する際に、JDコースを実施する大学が予め文科省に申請して、文科省からの承認を得ることが前提となっているが、その申請に必要な書類とするためには『本学とチリ大学・CLCとの間でJDコース開設のための協定書』を作成する必要がある、このことについてチリ側関係者に説明を行い、了解を取り付けることができた。また、右協定書の内容に関する詰めや署名締結までのスケジュールについて、当方が作成して説明をした書類について、チリ関係者の基本的な同意を取り付けるこ

とができた。

また、今後協定書のドラフトを作成しその内容についても適宜詰めていくことが必要であるが、文科省がJDプログラム設置認可審査のポイントで謳っている（『予定』の段階）内容を基に本学が作成した協定書（案）を仮英訳したPROVISIONAL DRAFTを6月にチリに出張した本学チームがチリ側に手交していたが、今回このことについては確認することができなかった。

（イ）JDコースのカリキュラムを含めた内容の詰めについて

JDコースの具体的なカリキュラムの詰めについては、本年6月に本学教職員を派遣し協議を行い、その後、課題等を抽出し、今回の派遣において9項目による質問、内容の詰めを行った。今後の課題であるが、なるべく早いタイミングで、本JDコースの趣旨に沿った関連する分野における本学医学部における担当者や担当可能な教室又は教員名を挙げ、その関係者がチリ側関係者と本JDコースの内容について更なる擦合せを行う等、具体的内容を決めていくことが最重要であり、このことが早期に行われなければならないことを再々確認することができた。また、JDコースのカリキュラムを含む内容について如何にして詰めていくのかという点についても今後の課題であり、早急に本学関係者間でこのことについて共有をしておくことが重要であると思われる。

また、協議を行った際、吉澤学長から、双方の大学等間で情報共有、課題等の情報交換及び十分な資料等の作成が円滑に行われていない旨の指摘があり、今後、そのようなことのないよう、双方においてJDコース設置に向け、連絡調整を密にしながら行うこととなった。

（ウ）チリ保健省訪問

8月14日 8時 CLCのロペス医師を伴い訪問した。

吉澤学長からは、自分はこのプロジェクトを実施する際の協定書を2010年1月に来智し署名を行ったが、2010年以来本学としては本学独自の資金にて医療専門家を2名派遣するなど予算的にも人的にも相当な負担を負ってきており、今後同じように大学として対応していくことができるのか疑問なしとしない。ついては、チリ保健省が、政権が代わってもどれだけ本気で対応する気があるのか確認をしたい。また、双方の予算措置の状況にもよるが、大腸がんスクリーニング以外の分野に拡大することも含めて、このPRENECがこれまでどれだけ成果が出たのかこの目で確かめたい、旨述べられた。

これを受けてソト官房長は、自分の妻は病理学者で東京の駒込病院で勉強をした経験があり、日本の医療技術は高く評価をしている。大腸がんスクリーニングプロジェクトについても、早期診断、早期治療を行えば患者の負担だけでなく政府全体から見て保健行政の観点でも経済的に見て極めて有用であることは承知している。現在大腸がんだけでなく胃がんも多くみられ死亡

率の高いがんについて協力をいただけることは大変に有り難いと思っている、と表明した。また、同官房長は自分の専門が大腸外科であり、政府として PRENEC のコーディネータをしており他の高官も評価をしていること、全国展開の緒についたばかりであるので今後とも継続をしていきたいと考えているし、自分としてはコーディネータとして色々とアレンジをしていきたいと考えている、と表明した。

なお、ブローズ副大臣からは、大腸がんスクリーニングは政府としても継続的にやって行きたいし、この技術を南米の他国にも広げていきたいと考えている旨の発言があった。

また、ロペス医師からは、大腸がんスクリーニングの今後の展開については、チリ側の体制も整いつつあり、2010年1月に行われた協定の更新は重要である旨の発言がなされた。

最後に、吉澤学長から保健省の熱意は理解した。帰国後、関係者と協議をし今後の具体的な方針を決めて行きたい旨の発言がなされた。

(エ) チリ大新学長表敬訪問

8月13日の午前中に、新たにチリ大学長に選ばれたビバルディ学長及び新たに選出されたククルジャン医学部長に、チリ大学医学部において面会することができた。ビバルディ新学長は直近のチリ大学副医学部長であり、数年前に京都で学会の帰りに本学に立ち寄り本学に表敬訪問を行っていること、本学のプロセメ学生のチリ大学医学部受け入れについてもご尽力をいただいていること、副医学部長時代にも本学派遣チームの表敬を受けていただいたこと等に鑑み、本学及び本学がチリで実施をしている大腸がんスクリーニングプロジェクトについて良く理解をしていることが確認された。ビバルディ新学長も我々の表敬訪問を受けて、本学が係っている大腸がんスクリーニングプロジェクトやプロセメ学生派遣やJDコースの実施については高く評価をしており、今後のチリ大学と本学の円滑な協力体制を構築する意味でも大きな意味を持つと思われる。

吉澤学長からは、JDコースの実施は大賛成であり、その準備も含めて推進していきたいと考えている。チリ大学はチリで伝統のある最古の医学部であり、そのような伝統ある大学とJDコースを開設することは、世界に冠する医療総合大学を目指す本学にとって極めて重要であり光栄に思っている旨表明された。

(オ) CLC理事長表敬訪問

8月14日 Fernando CAÑAS (CLC理事長)、Dr. Marcos GOYCOOLEA (CLC理事)、Dr. Erwin BUCKEL (CLC院長)、Dr. Francisco LOPEZ (CLC医師) 他のCLC高官と打合せを持つことができた。

初めにロペス医師から現時点までのPRENECについて本学派遣団に説明

がなされた。具体的には、これまでプンタ・アレーナス市ほか数都市で約10,000人のスクリーニングが行われ、次の段階で結果を発表していくこと、他の南米地域に大腸がんスクリーニングを普及していくこと等が説明された。

また、大腸がんスクリーニングの関連でチリ大学医学部との間でPhDコース（JDコース）の設置準備が開始されており、CLCとしてもできる限りの協力をしていくことが表明された。

右説明を受けて、吉澤学長から、PRENECについて保健省からの評価を検証したい、本学全体の予算が厳しいということもありチリ側の考え次第ではこれまで通りのようにはいかないが、大学としては基本的にサポートをしていきたいと考えているし、チリ国民の健康増進に役立つ大腸がんスクリーニングプロジェクトを支持したい。しかしながら、日本のアカデミックでは論文が必要であるが、派遣している本学の専門家にとって今の状況では論文が書ける状態ではないように思える。このことについて特にCLCにサポートをして欲しい、旨の発言がなされた。

また、江石教授からは、CLCには十分な研究ができる環境を作っていたきたい。具体的にはラボのスペースがほとんど無いことである、新しく設置されるJDコースの円滑な立ち上げのためにも研究できる場所を提供してほしい旨発言があった。

これを受けてCLC理事長より、CLCは合意していることは実行する、必要なラボを提供したいと考える、ただしプログラムの目的や具体的な内容を決めるのが先決であると思う旨も表明された。

その直後、CEOより、工事が遅れており現段階で場所を見ていただくのは難しい旨発言があった。

最後に吉澤学長が、スペースがあれば必要な機材は日本から持ってくる。機材も含めてラボが無いと本学から若い専門家は派遣することができない。LACRCとしてのラボの場所を確保して欲しい旨要請された。

（カ）エクアドルにおける報告

8月18日（月）にエクアドル保健省が主催して、大腸がんスクリーニング分野における国際シンポジウムが開催され、東京より出張した派遣団は同シンポジウムに参加した。今般出張した本学の江石教授、河野教授、小嶋特任教授、植竹特任准教授、荒木講師の5名、及びLACRCに派遣されている河内講師、岡田助教、小林助教の3名が同分野に関連する講演を行った。また、本国際シンポジウムには日本大使館より小瀧大使の同席をされており、本学のエクアドルでの活動をアピールすることができた。なお、大腸がんスクリーニング関連では、エクアドル保健省がその管轄下にあるPablo Arturo Suarez国立病院に既に自己予算で内視鏡一式を導入しており、本学派遣団は同病院を訪問し、その設置状況も確認することができた。このことにより、

大腸がん死亡率低下に向けて同国保健省の並々ならぬ覚悟を感じることができた。

(7) 出張の日程

- 9日（土）14時35分 AF273便にて東京/成田発
20時10分 パリ着
23時20分 AF406便にてパリ発
- 10日（日）07時55分 サンチャゴ着
10時00分 吉澤学長、江石先生のみホテル（Boulevard Suites）
チェックイン
10時30分 江石先生部屋にてLACRCスタッフと日程等事前打
合せ、活動報告等
12時00分 昼食（訪問団、LACRC） 徒歩圏内のモールにて
15時00分 ホテルチェックイン、解散
- 11日（月）ENDOSUR参加（関係者、希望者）
09時45分 ENDOSUR開会式・吉澤学長挨拶
10時15分 ENDOSUR会場出発
11時00分 国立サン・ボルハ・アリアラン病院訪問同病院内・
日智消化器病研究所視察、エステラ所長と面談等
12時00分 サン・ボルハ・アリアラン病院出発
12時30分 レストラン到着・昼食
13時30分 レストラン発
14時00分 ENDOSUR会場着
19時00分 ホテル発
20時00分 ENDOSURレセプション（食事会）、
終了後ホテルへ、解散
- 12日（火）ENDOSUR参加（関係者、希望者）
09時30分 ホテル発
10時00分 JICAチリ支所訪問
伊藤支所長、林支所長代理らと面会
11時00分 JICA発→ENDOSUR会場→チリ大学へ
（昼食はバス内でランチボックス）
12時00分 チリ大学医学部呼吸器科、呼吸器外科視察
（クラベロ医師ら）
14時00分 チリ大学発
15時00分 ホテル着

16時30分 ホテル発
17時00分 CLCにてジョイント・ディグリーに関する協議
(CLCブルディレス医師、トレス医師、チリ大オライアン医師ら)
19時30分 訪問団、LACRC、プロセメ学生と夕食会
終了後ホテルへ、解散

13日（水）ENDOSUR参加（関係者、希望者）

昼食は各自

14時00分 ホテル発
15時00分 チリ大学医学部訪問
ビバルディ学長・ククルジャン医学部長らと面会
15時45分 チリ大学研究室
(オライアン研、カステジョン研、ミチェア研)訪問
17時00分 チリ大学発
18時00分 ホテル着
19時00分 ホテル発
20時00分 CLC要人らと会食、終了後ホテルへ、解散

14日（木）07時30分 ホテル発
08時15分 保健省訪問（バロウス次官、ソト官房長らと面会）
ロペス医師帯同
08時45分 保健省発
09時45分 CLC着
10時00分 CLCカニャス理事長、ゴイコレア理事、
ブッケル院長表敬
11時00分 プロセメ学生研究進捗報告会（～13：00）
13時00分 ブラジル経産省案件キック・オフミーティング
第一部（12：00）に合流
13時30分 軽食
14時00分 ブラジル経産省案件キック・オフミーティング
第二部
15時15分 本学派遣教員（LACRC）研究及び現状報告会
16時15分 CLC発
16時25分 ホテル着
17時45分 ホテル発
18時30分 大使公邸にて村上大使、折原参事官らと会食
終了後ホテルへ、解散

15日（金）【チリの祝日のため、バルパライソ市視察】

09時00分 ホテル発
11時00分 バルパライソ着 視察
13時00分 バルパライソにて昼食
15時00分 バルパライソ発
17時00分 ホテル着、解散

16日（土）06時30分 LA2638便にてサンチャゴ発

09時30分 リマ着

12時25分 LA2588便にてリマ発

14時55分 キト着

エクアドル・キト着 宿舎→Marriott Quito

17日（日）キト市内ホテルにて18日の日程に係る事前打合せ

18日（月）08時00分から17時00分まで国際シンポジウム参加

19時00分 在キト日本大使館大使公邸にて保健省関係者と共に
招かれる

19日（火）16時05分 KL751便にてキト発

20日（水）13時15分 アムステルダム着

17時50分 KL863便にてアムステルダム発

21日（木）12時00分 東京/成田着

1-1-2. タイ拠点

①学生交流

(1) プロジェクトセメスター制度による医学部学生の海外研修

プロジェクトセメスター制度により平成26年6月25日から平成26年11月21日まで、本学医学部医学科4年生（敬称略）の太田潤、森優奈、和田昇悟の3名がチュラロンコーン大学医学部にてアピワット教授他のもとで研修を行った。研修中、学生はバンコクだけでなくミャンマー国境近くのヘルスセンターの訪問や東南アジア最大規模の病院ネットワークのバンコク病院の訪問など、日本では得られない貴重な経験もできた。



本学学生とアピワット先生、江石医学部長、タイ人学生及び各国の留学生他

(2) 医学部保健衛生学科学生及び大学院生の海外研修

平成26年8月17日から8月27日まで、世界展開力強化事業により下記の医学部保健衛生学科の学生と大学院生の計6名が引率の教員4名と共にチュラロンコーン大学保健科学部他で研修を行った。本学とチュラロンコーン大学保健医療学部は平成25年11月8日に学術交流協定を結び、今回の学生交流が最初の学生交流で、本学の学生、院生は、チュラロンコーン大学のラボラトリーの研修やタイ赤十字献血センターの訪問などを通じ、両国の保健衛生の違いなどを学び、また、両大学の学生は日タイの文化紹介を行い、交流を深めた。

- ・研修期間：平成26年8月17日から8月27日まで（11日間）
- ・研修場所：バンコク都

- ・研修先：チュラロンコーン大学保健医療学部
- ・参加学生（敬称略）：表谷文美芳（修士1年）、ケイシー美香（学部3年）、
甘楽明穂（同）、早川佳那（同）、大西滢奈子（同）、
村上紀里香（同） 計6名
- ・引率教員（敬称略）：沢辺元司、窪田哲朗、小野田勝次、副島友莉恵
計4名
- ・研修目的：本研修の目的は、タイでの研修活動を通じて国際理解力、異文化理解力を向上させると共にタイの医学教育、保健衛生を理解し、将来、学生がグローバルな課題に対応できる医療人・保健衛生教育研究者を目指すための動機付けを行うことである。



タイ赤十字献血センターを訪問する教員と学生

(3) 歯学部学生の海外研修

平成26年8月29日から9月6日まで、世界展開力強化事業により下記の歯学部学生3名が引率の教員2名と共にタイに派遣され研修を行なった。学生は、チュラロンコーン大学歯学部やシーナカリンウィロート大学歯学部での研修の他、バンコク都内のヘルスセンターの他に郊外のパクレットの孤児院での歯科医療の現状を学んだ。

- ・研修期間：平成26年8月29日から9月10日まで（13日間）
- ・研修場所：バンコク都
- ・主な研修先：チュラロンコーン大学ー東京医科歯科大学研究教育協力センター（CU-TMDU研究教育協力センター）、
チュラロンコーン大学歯学部、
シーナカリンウィロート大学歯学部、

バンコク都内及び郊外のヘルスセンター

- ・参加学生（敬称略）：川面理沙（4年）、中島すみか（同）、佐川夕季（同）
計3名
- ・引率教員（敬称略）：川口陽子、小野田勝次、石田雄之 計3名
- ・研修目的：本研修の目的は、タイでの研修活動を通じて国際理解力、異文化理解力を向上させると共にタイの歯学教育、歯科医療を理解し、将来、学生がグローバルな課題に対応できる歯科医療人・歯学教育研究者を目指すための動機付けを行うことである。



パクレットの孤児院を訪問する教員と学生

②健康セミナー及び歯の健康相談会

平成26年5月31日、バンコクのバンコク病院において、同病院と共催で在留邦人を対象とした健康セミナーと歯の健康相談会を実施した。バンコク病院ワタナソットがんセンターのテラブッド所長代行は、本学医学部の最初のタイ人留学生であり、同先生から母校である本学と何か共催事業を行ないたいとの要望があった。これを受けて、同病院の約20%の患者が在留邦人であることから、今回在留邦人向け健康セミナーを実施するものである。テラブッド先生、本学の学生支援・保健管理機構長の宮崎泰成先生、大学院医歯学総合研究科顎顔面矯正学分野の川元龍夫先生が講演を行なった。歯の健康相談会は、上記川元先生の他、下記の先生が相談員になって行われた。本学の元留学生のアティパン先生他も協力してくれた。この時期は、反政府のデモがあった時期にもかかわらず、会場には、50家族、84名の在留邦人が参加した。今回は、初めてバンコク病院との共催であったが、在留邦人への案内や場所の確保、当日の受付等で同病院関係者から多くの協力を得た。また、参加者も前回までは日本人学校の保護者や児童生徒を対象にしたが、今回は、バンコク病院から広く在留邦人に

案内してもらったので、高年齢層の在留邦人も参加してくれた。また、歯の相談会は、当日午後予定していたにもかかわらず、午前中から相談を受けたいと言う在留邦人や相談時間が過ぎたので、引き続き廊下で相談を受ける在留邦人など皆さん熱心に相談を受けていた。

- ・ 本学講師・相談員（敬称略）：宮崎泰成（呼吸器内科）、川元龍夫（顎顔面矯正学分野）、小野芳明（小児歯科学分野）、黒田真司（インプラント・口腔再生医学分野）、黒原一人（顎顔面外科学分野）、池田裕一（歯周病学分野） 計6名
- ・ 本学の元留学生：Dr. Atiphan Pimkhaokham, Dr. Wannakorn Sriarji
- ・ 運営担当教職員（敬称略）：森尾郁子、小野田勝次、福井雄二、Sadr Alireza、三原智樹、古舘藍子、石原静 計7名



宮崎先生の講演



相談に応じる川元先生とアティパン先生

③歯科留学生の募集説明会

平成27年1月31日から2月1日までバンコクのマヒドン大学歯学部で行われた「第6回国際接着歯学学会」の会場ブースを利用して会議の参加者を対象に本学歯学留学希望者に情報提供を行なった。本学からは教職員の留学生、大学院生が説明役を務めた。ブースには、約70名のタイをはじめとする東南アジア、南米、中東などの大学関係者、学生が立ち寄って説明を聞いた。元留学生も現役学生と一緒に多く参加してくれ、本学の卒業ガウンや法被に大変関心を示し、試着していた。中には、現在タイの新設歯科大学で勤務しているが、どうしたら本学大学院に留学できるかという質問をするタイ人の先生もいた。

- ・運営担当教職員（敬称略）：小野田勝次、Sadr Alireza、關奈央子、
延原都香、白谷正洋、山田亮平 計6名
- ・運営補助大学院生（敬称略）：林樹莉（2年）、Baba Bista(3年)、
Kalyan Kong(2年)、Jorge Espigares(2年)、
Yuan Zhou(1年) 計5名



留学希望者に説明する本学の留学生

④歯科医療従事者生涯研修セミナー

(1) ナレスワン大学歯学部

平成26年6月23日、タイ北部のピサノロック市にあるナレスワン大学歯学部において、森山啓司歯学部長と川口陽子教授による歯科医療従事者生涯研修セミナーが行われた。ナレスワン大学の要望で現役大学生も参加した。参加者からは日本とタイの歯科治療の違いなどに関する質問があった。この機会に本学への留学案内も行なった。



森山先生の講演を聞くナレスワン大学歯学部の学生と教員



森山先生に質問する学生

(2) チュラロンコーン大学歯学部（Eラーニング）

平成26年7月15日、チュラロンコーン大学にあるCU-TMDU研究教育協力センターで、元歯学系留学生を対象に本学図書館情報メディア機構の木下淳博機構長、須永昌代助教、国際交流センター福井雄二特任講師によるEラーニングのセミナーが行われた。セミナーでは、本学のEラーニングの紹介、教材の作成方法などに関する講習が行われた。セミナーには、チュラロンコーン大学歯学部及びチェンマイ大学歯学部から教員をしている元留学生18人が参加して、熱心に学んでいた。



指導中の木下先生



指導中の須永先生

⑤学術協定書の締結

(1) ナレスワン大学歯学部

平成26年6月23日、タイ北部のピサノロック市にあるナレスワン大学歯学部において、本学歯学部の森山啓司歯学部長とナレスワン大学歯学部のトサポン・パイヤパタミン歯学部長の間で学術交流協定書の署名が行われた。今回の協定書は、前回締結した協定書の更新であり、トサポン歯学部長は本学の元留学生である。



MOU署名後の記念撮影

(2) チェンマイ大学医学部

平成26年11月11日、チェンマイ大学で、本学医学部の江石義信医学部長とチェンマイ大学医学部のワタナ・ナバチャローン医学部長の間で学術交流協定書の署名が行われた。チェンマイ大学とは、解剖学を中心に交流が進められる予定である。



MOU署名後の記念撮影

(3) シーナカリンウィロート大学歯学部

平成27年3月24日、本学において、吉澤学長、森山歯学部長及びシーナカリンウィロート大学歯学部のナロンサック歯学部長の間で学術交流協定書と学生交流の覚書の署名が行われた。今回の学術交流協定書は、前回締結した協定書の更新であり、ナロンサック歯学部長は本学の元留学生である。



MOU署名後の記念撮影

⑥ジョイント・ディグリー合同委員会

本学とチュラロンコーン大学歯学部は、両大学大学院博士課程のジョイント・ディグリー・プログラム（JDP）を矯正歯科学分野で開設する準備を進めることとして、第1回JDP合同委員会を平成26年5月12日にCU・TMDU研究教育協力センターで開催した。

その後の準備作業を経て、平成27年1月6日CU・TMDU研究教育協力センターで、第2回合同委員会を開催した。その後、27年3月、文部科学省に新設の申請書を提出した。これは、本学歯学部として最初のJDPであり、チュラロンコーン大学歯学部にとっても、最初のJDPになる予定。



第1回JDP合同委員会

⑦医学系元日本留学生セミナー

平成27年2月21日、経産省、メディカルエクセレンスジャパン（MEJ）との共催で日本の医学部を卒業したタイ人医師を中心とした元医系留学生を対象に医療セミナーを開催した。このセミナーの講師として本学の江石義信医学部長、植竹宏之教授（腫瘍外科学分野）が参加し、国際交流センターの特任准教授の小野田勝次が司会を務めた。当初、50名を予定していた参加者は約100名となり、盛大なセミナーとなった。本学卒業生も多く参加し、北部タイのピサノロークのナレスワン大学の教員になった留学生、南部のラヨンの保健センター長の留学生、リンパ腫研究所の教授になった留学生などタイ各地から元留学生が、江石医学部長、植竹教授と懐かしそうに談笑していた。また、来賓として、タイ保健省のスリヤ次官補、日本大使館の内川公使が参列し、来賓挨拶を行なった。



来賓挨拶をするスリヤ保健省次官補

⑧バンコク病院ワタナソットがんセンターのティラブー所長代行に客員教授 名称付与

昨年度に引き続き、前国立がんセンター所長で現在バンコク病院ワタナソットがんセンター所長代行をされているティラブー・クハプラマ先生に本学客員教授の名称を付与した。先生は、昭和55年（1980年）、本学医学部をタイ人として初めて卒業し、タイに帰国後、タイのがん対策に半生を打ち込まれた先生である。平成26年5月31日、邦人向けセミナー・歯科相談会のため、タイに出張中の国際交流センター長の森尾郁子教授から同先生に本学の客員教授の名称付与された旨の辞令書が交付された。この辞令交付は、在留邦人向け健康セミナーの冒頭、バンコク病院関係者がいる前で行われた。その後、ティラブー先生が本学卒業生であることがバンコク病院でも評判になった。ティラブー先生には、上記の在留邦人向けセミナーのほかタイ研修中の本学医学生への「タイのがん事情」の講義などをお願いした。



森尾国際交流センター長から客員教授の辞令を受け取るティラブー先生

⑨シーナカリンウィロート大学歯学部20周年記念式典

平成26年8月21日、シーナカリンウィロート大学で、同大学歯学部の設立20周年記念式典が行われ、本学歯学部の森山啓司歯学部長が祝辞を述べた。国外からの来賓は、森山歯学部長の他に九州歯科大学西原達次学長の2名で、森山歯学部長は、両大学の長年の交流に言及した祝辞を述べ、参加者から本学に対する謝辞があった。



開会前の来賓の記念撮影（左からナロンサック歯学部長、森山歯学部長）

⑩TV会議の活用

CU-TMDU研究教育協力センターに設置したTV会議システムを使ったTV会議の実績は後述（2－2－4⑤）のとおり（日付は、現地日付）。

1-1-3. ガーナ拠点

平成26年度も文科省委託事業として、感染症研究とその分野の人材育成を主目的として活動したほか、本学の研究・教育に資する事業を行った。活動の概要は以下のとおりである。

①拠点運営体制

ガーナ・野口記念医学研究所（野口研）への派遣教員2名（井戸栄治・特任教授、鈴木高史・特任教授）及び現地事務補助者1名（志村まゆみ）とした。

②研究活動

井戸特任教授がウィルス学研究所を、鈴木特任教授が寄生虫学研究所を担当した。

(1) ガーナにおけるHIV/AIDS治療（ART）に関する研究 WHOのエイズ治療ガイドラインに沿って投薬中のガーナのHIV陽性者270例の治療効果を経時的に追跡調査した結果、全体の9割以上でウィルス量が検出限界以下であったが、治療失敗のケースもあり、薬剤耐性変異ウィルスも検出された。本課題について論文1編を発表した。

(2) HIV組み替えメカニズムと分子疫学研究 HIVの分子進化の機構として、複数のウィルス株の重感染が同一患者個体内で起こっている患者の試料採集を継続した。しかしながら、調査対象地にしたコンゴ民主共和国では、今年度については重感染例が検出できなかった。

(3) 西アフリカ地域の寄生虫疾患新規防御法の確立 マラリア伝播能を欠失する遺伝子改変ハマダラカの研究では、*An. gambiae*のインジェクション解析モデルとして、オオモリハマダラカにツエツエバエ由来デフェンシン遺伝子導入を試み、マラリア原虫伝播能を検討した。

(4) 寄生虫疾患及びベクターの情報収集・監視システム構築 ボルタ河流域住民のアフリカトリパノソーマ原虫感染実態調査で得られた陽性サンプルのフルゲノムを確認中である。

(5) 蚊媒介性感染症の研究 アフリカ域内の蚊媒介性ウィルス性疾患全体をカバーする調査で、デングウイルスの他にチクングニアウイルスの存在を確認した。*Aedes*属蚊の調査は、ガーナ国内でサンプル収集地区を拡大し、蚊の行動繁殖パターン、殺虫剤耐性獲得などを比較調査した。関連課題で論文2編を発表した。

③人材育成活動

(1) カウンターパートの人材育成 ガーナ・野口研から4名の共同研究スタッフを日本に招聘し、共同研究と情報交換及びエボラウィルスなど高病原性検体の取扱い・検査法の研修などを実施した。

(2) 東京医科歯科大学の若手人材育成 医学部医学科4年生のプロジェクトセメスター期間中に3名を派遣予定であったが、エボラ熱関連の事情により今年度は見送られた。

④研究成果発表

拠点事業による研究成果は欧文雑誌にて論文発表をした。

⑤その他

(1) 情報発信活動 文科省大臣官房国際課等からの依頼に適宜対応し、拠点活動の情報提供を行った。また、2月に開催されたJ-GRID成果報告シンポジウムにて、開設時からの拠点活動の報告を行った。

(2) ガーナ拠点推進委員会 ガーナ拠点の運営上の問題点を協議する機関として設置しているガーナ拠点推進委員会を開催して、予算、人事及び研究計画等について議事を進めた。

1－2．国際交流協定関連業務

1－2－1．新規協定締結・更新支援

[新規協定締結支援]

- ・医学部がオーストラリア国立大学（ANU）医学部と学術交流協定書を締結
本医学部は、オーストラリアの名門大学の一つであるオーストラリア国立大学（ANU）の医学部と学術交流協定書の締結について協議をしてきたが、平成26年4月28日同大学医学部において協定書の署名を了し正式に協定を結んだ。

署名式出席者

東京医科歯科大学

江石義信教授（人体病理学、医学部長）

河野辰幸教授（食道・一般外科学、国際担当副医学部長）

稲瀬直彦教授（統合呼吸器病学、医学部教育委員会委員長）

秋田恵一教授（臨床解剖学、医学部教育委員会副委員長）

高田和生教授（（膠原病・リウマチ内科学、）グローバルキャリア支援室長）

吉田丘 特任教授兼国際交流センター事務部長

オーストラリア国立大学（ANU）

Dr. Nicholas Glasgow ANU 医学部長

Dr. Christopher J Nolan ANU 内分泌学教授

Dr. Narci Teoh ANU 消化器病学及び肝臓病学教授

Dr. Geoffrey C Farrell ANU 肝臓病学教授

Dr. Jane Dahlstorm ANU 病理学教授

Dr. Philip Board ANU JCSMR 副所長



署名後の江石医学部長とグラスゴウ医学部長。



署名後、左から高田教授、秋田教授、稲瀬教授、江石医学部長、河野教授、グラスゴウ医学部長他 ANU 医学部のスタッフとの記念写真



今後の両校による学生交流を目指して互いに相手の国を指さす両医学部長

- ・ 国立台湾大学医学部と本学医学部との学術交流新規締結支援

本学医学部が国立台湾大学医学部（NTUCM）と学術交流協定書を締結

本学医学部は、台湾の名門大学の一つであるNTUCMと学術交流協定書の締結について協議をしてきたが、平成26年6月9日同大学医学部において学術交流協定書及び学生交流覚書の署名を了し正式に協定を結んだ。

署名式出席者

東京医科歯科大学（TMDU）

江石義信教授（人体病理学、医学部長）

河野辰幸教授（食道・一般外科学、国際担当副医学部長）

稲瀬直彦教授（統合呼吸器病学、教育担当副医学部長、医学部教育委員長）

秋田恵一教授（臨床解剖学、医学部教育副委員長）

吉田丘 特任教授兼国際交流センター事務部長

国立台湾大学医学部（NTUCM）

張上淳医学部長

吳明賢教授 医学部一般医学科教授健康管理センター主任

邱瀚模教授 医学部副教授

鄧述諄教授 医学部研究担当副医学部長

李財坤教授 医学部国際交流センター副主任

蔡詩力主治医師 医学部附属病院臨床技能センター



署名後の江石医学部長と張医学部長



署名後、左から邱教授、吳教授、李教授、鄧教授、吉田特任教授、張医学部長、江石医学部長、河野教授、稲瀬教授、秋田教授



署名後、NTUCM 臨床技能センター（Clinical Skill Center）を視察。

1-2-2. 協定校との交流実績

国際交流協定一覧

No.	系統	国・地域	協定先機関	交流実績
1	大学間	タイ	チュラロンコーン大学	有
2	大学間	チリ	クリニカ・ラス・コンデス病院とチリ国保健省	有
3	大学間	エクアドル	エクアドル保健省	有
4	大学間	パラグアイ	パラグアイ国保健省及びクリニカ・ラス・コンデス	無
5	医学系	イギリス	インペリアルカレッジ医学部	有
6	医学系	タイ	チュラロンコーン大学医学部	有
7	医学系	ガーナ	ガーナ大学野口医学研究所	有
8	医学系	チリ	チリ大学医学部	有
9	医学系	イギリス	シェフィールド大学看護・助産学科	無
10	医学系	フィンランド	セイナヨキ応用科学大学	有
11	医学系	フィンランド	タンペレ大学看護学科	有
12	医学系	アメリカ	ワシントン大学看護学部	有
13	医学系	アメリカ	コロラド大学デンバー校看護学部	無
14	医学系	台湾	国立陽明大学	有
15	医学系	デンマーク	コペンハーゲン大学大学院薬学研究科	無
16	医学系	中華人民共和国	天津医科大学心血管病臨床学院	有
17	医学系	カザフスタン	S.D.アスフェンディヤロフ カザフ国立医科大学	無
18	医学系	大韓民国	ソウル大学医学部	有
19	医学系	台湾	台北医学大学医学部	有

20	医学系	タイ	マヒドン大学医学部（シリラート病院）	有
21	医学系	タイ	国立がんセンター	無
22	医学系	タイ	チュラロンコーン大学保健医療学部	有
23	医学系	台湾	台湾国防医学院医学部	有
24	医学系	チリ	アウストラル大学医学部	無
25	医学系	オーストラリア	オーストラリア国立大学医学部	※
26	医学系	台湾	国立台湾大学医学部	※
27	医学系	タイ	チェンマイ大学医学部	※
28	歯学系	大韓民国	ソウル大学校歯科大学	有
29	歯学系	大韓民国	慶北大学校歯科大学	無
30	歯学系	大韓民国	全南大学校歯学部	有
31	歯学系	タイ	チュラロンコーン大学歯学部	有
32	歯学系	タイ	マヒドン大学歯学部	有
33	歯学系	タイ	チェンマイ大学歯学部	有
34	歯学系	タイ	ソンクラ王子大学歯学部	有
35	歯学系	タイ	コンケン大学歯学部	有
36	歯学系	タイ	ナレスワン大学歯学部	有
37	歯学系	タイ	シーナカリンウィロート大学歯学部	有
38	歯学系	中華人民共和国	吉林大学口腔医学院	無
39	歯学系	中華人民共和国	大連医科大学口腔医学院	無
40	歯学系	中華人民共和国	北京大学口腔医学院	有
41	歯学系	中華人民共和国	首都医科大学歯学部	有

42	歯学系	中 華 人 民 共 和 国	同済大学口腔医学院	無
43	歯学系	中 華 人 民 共 和 国	内蒙古医学院	無
44	歯学系	台湾	台北医学大学口腔医学院	有
45	歯学系	台湾	国立台湾大学医学部歯学科	有
46	歯学系	台湾	高雄医学大学口腔医学院	有
47	歯学系	イ ン ド ネ シ ア	インドネシア大学歯学部	有
48	歯学系	シ ン ガ ポ ー ル	シンガポール大学歯学部	有
49	歯学系	マ レ ー シ ア	マラヤ大学歯学部	無
50	歯学系	デ ン マ ー ク	コペンハーゲン大学健康科学部歯学科	無
51	歯学系	ミ ャ ン マ ー	ヤンゴン歯科大学	有
52	歯学系	ベトナム	ホーチミン医科薬科大学歯学部	有
53	歯学系	ベトナム	ハノイ歯科大学	無
54	歯学系	モンゴル	モンゴル健康科学大学歯学部	有
55	歯学系	ス リ ラ ン カ	ペラデニヤ大学歯学部	無
56	歯学系	カ ン ボ ジ ア	カンボジア健康科学大学歯学部	有
57	歯学系	ラオス	ラオス国立大学医科学部歯学科	有
58	歯学系	イギリス	キングスカレッジロンドン歯学部	有
59	歯学系	チェコ	マサリク大学医学部口腔科学科	有
60	歯学系	アメリカ	ペンシルベニア大学歯学部	有
61	歯学系	アメリカ	ハーバード大学歯学部	有
62	歯学系	アメリカ	ノースキャロライナ大学歯学部	無

63	歯学系	アメリカ	カリフォルニア大学サンフランシスコ校歯学部	無
64	歯学系	カナダ	マギル大学歯学部	無
65	歯学系	オーストラリア	メルボルン大学健康科学部歯学科	有
66	歯学系	中華人民共和国	四川大学華西口腔医学院	無
67	歯学系	台湾	台湾国防医学院歯学部	無
68	歯学系	オーストラリア	シドニー大学歯学部	※
69	歯学系	台湾	中国医薬大学歯学部	※
70	歯学系	フランス	クロード・ベルナール・リヨン第1大学歯学部	※
71	生材研	イギリス	ストラスクライド大学バイオエンジニアリングユニット	無
72	生材研	イギリス	ロンドン大学クイーンメアリー・アンド・ウエストフィールド校生体医用材料総合研究センター	無
73	生材研	スウェーデン	リンシェピン大学医用生体工学科	無
74	生材研	ポーランド	ポーランド科学アカデミーバイオサイバネティクス・生体工学研究所ならびにバイオサイバネティクス国際センター	無
75	生材研	大韓民国	慶北大学校生体材料研究所	有
76	生材研	中華人民共和国	北京大学口腔医学院	無
77	難研	シンガポール	国立シンガポール大学腫瘍研究所	無
78	難研	タイ	チュラロンコーン大学歯学部	無
79	難研	フランス	リヨン高等師範学校	無
80	難研	大韓民国	ソウル国立大学分子生物学・遺伝学研究所	無
81	疾患生命・難研	ポーランド	グダニスク医科大学	無

82	疾患生命・難研	ドイツ	ドイツリウマチ疾患研究センター	有
83	疾患生命・難研	中華人民共和国	中国医科大学	有
84	疾患生命・難研	中華人民共和国	北京協和医学院	有
85	疾患生命・難研	ベトナム	ハノイ医科大学	無
86	疾患生命・難研	イギリス	ダンディー大学	無
87	疾患生命・難研	ドイツ	ハイデルベルグ大学生命情報学部	無
88	疾患生命	ドイツ	フンボルト大学	有
89	疾患生命	ドイツ	フライブルグ大学	有
90	疾患生命・生命情報	中華人民共和国	上海センター	無

交流実績の※は、平成26年度に新規締結したものである。

1－3．第6回国際サマープログラム（ISP2014）

2014年8月25日から28日まで

ISP2014 “Ageing and Metabolism”

1－3－1．実施趣旨

本プログラムを通して、本学を広く世界にアピールするとともに、優秀な外国人留学生確保に資する。

1－3－2．実施体制

教育推進協議会－国際サマープログラム企画ワーキンググループ（WG）

－国際交流センター－国際交流センター事務部国際交流課

国際サマープログラム 2014 企画 WG 委員名簿（平成 26 年 8 月 1 日現在）

烏山 一教授（大学力向上戦略会議）

木村彰方教授（大学力向上戦略会議）

山岡昇司教授（教育推進協議会）

小野卓史教授（教育推進協議会）

小川佳宏教授（医歯学総合研究科・医学系） 座長

吉田雅幸教授（医歯学総合研究科・医学系） 副座長

和泉雄一教授（医歯学総合研究科・歯学系）

水口俊介教授（医歯学総合研究科・歯学系）

仁科博史教授（医歯学総合研究科・生命理工学系）

古川哲史教授（難治疾患研究所）

三林浩二教授（生体材料工学研究所）

森尾郁子教授（国際交流センター）

オブザーバー：吉田丘特任教授、大北葉子准教授、泉谷双蔵准教授、David Cannell 准教授、小野田勝次准教授（以上、国際交流センター）、山本正彦学務部長、山口和洋学務企画課長兼学生支援課長、大滝正人入試課長、永倉義則入試課長補佐、延原都香国際交流課長

会議開催状況

2013年10月10日（木） ISP2014準備の会

2013年11月27日（水） 第1回企画WG

2013年12月18日（水） 第2回企画WG

2014年2月27日（木） 第3回企画WG

2014年4月18日（金） 招聘者選考委員会

2014年4月28日（木）から平成2014年5月1日（木）まで

第4回企画WG（書面審議）

1－3－3．招聘参加者募集・選考状況

前年度同様に、医歯学総合研究科博士課程入試（ISP特別選抜）を受験する特別選抜枠とそれ以外の一般枠に分けて、招聘者選考を行った。特別選抜枠としては、7カ国から18名の応募があり、7カ国から15名と補欠者3名を選考委員会で決定し、招聘した（特別選抜枠招聘者15名全員が大学院入試を受験した）。一般枠としては、14カ国・地域から43名の応募があり、10カ国・地域から10名と補欠者3名を選考委員会で決定し、招聘した。全体合計では、アジア諸国17か国・地域（インド、インドネシア、カンボジア、シンガポール（出身国：イラン）、タイ、ネパール、パキスタン、バングラデシュ、ブータン、ベトナム、マレーシア、ミャンマー、モンゴル、ラオス、韓国、台湾、中国）の61名の応募者から、17カ国・地域（インド、インドネシア、カンボジア、シンガポール（出身国：イラン）、タイ、ネパール、パキスタン、バングラデシュ、ブータン、ベトナム、マレーシア、ミャンマー、モンゴル、ラオス、韓国、台湾、中国）の25名（総参加者数）を招聘した。

1－3－4．ISP2013までの反省点を踏まえたISP2014の運営

- ①招聘参加者の理解度に配慮した内容（特にレクチャーコースでは、テーマ「メタボエイジング」の導入・概要をなるべく平易に提示する方向性を講師間で共有した。）、ISPの開催趣旨に理解のある海外からの招聘講師や本学卒業生を講師に起用することにより、本学で研究することの魅力をアピールできたと考える。
- ②招聘参加者と講師、招聘参加者と本学教員・学生とのより密度の高い相互交流
・学内ツアーのうち、図書館以外の研究室ツアーは取りやめ、その時間をすべて招聘者の希望する分野訪問とした。
・今回は学外からの招聘講師に対してISP期間中の日程を事前に詳細に説明したため、ソーシャルアワーに全員参加していただけた。
・これまでと同様に、本学留学生をアルバイトとして極めて有効に活用できた。
（双方向の情報伝達）
・ソーシャルアワーで日本文化紹介を企画し日舞及び狂言を披露し、好評であった。
- ③予定のプログラムは、M&Dタワー内施設での講義、講演及び学内外での見学並びにレセプションとも円滑に行われた。
・講義及び講演中の写真撮影についてのルール作りと配付した資料及びプログラムブックにより、前年度のような問題もなく、参加者が講義・講演に集中することができた。
- ④特別選抜枠での招聘者については、募集要項に受験についての注意を書き加えたことにより、特別選抜枠で招聘した15名すべてが円滑に受験することができ

た。

1－3－5．次年度以降の検討事項

- ①第1回ISPに参加し本学大学院に入学した留学生が大学院修了を迎えるため、
今までのISPを振り返り、ISPの在り方やプログラムの構成を検討
- ②ISP特別選抜枠の応募方法・日程の再検討（入試課と連携）
- ③テーマ・プログラムなど
 - ・広いテーマ設定（「癌研究」→「感染と免疫」→「組織・臓器再生」→「脳と心」→「生体材料とその応用」→「メタボエイジング」→？）
 - ・招聘講師:本事業の趣旨を理解してくれる講師選び(本学教員のアピールを優先)
 - ・初日のウェルカムレセプションやソーシャルアワーに本学大学院生に声をかけるなど、招聘参加者と本学学生との交流機会をつくる工夫は引き続き必要
- ④予算面 引続き資金の有効活用に努力(招聘講師の厳選、本学教員の積極起用)

1－4．来訪者対応

2015年1月下旬チリ国よりジョイント・ディグリー・プログラム及びこれまでLACRCにおいて関与・実施をして来た大腸がんスクリーニングプロジェクトについて、本学の基本的な考え方を明確にするために、チリ大学より2名CLCより3名招聘し、意見交換を行った。

2. 教育活動

2-1. 日本語教育 順天堂留学生の参加を含む

2-1-1. 日本語研修コース

国費大使館推薦の研究留学生で文部科学省から本学を予備教育機関として指定された者（研修生）、及び本学研究留学生を対象に、大学院での勉学と日本での社会生活を送る上で必要な基礎的日本語能力とともに、日本文化、地理、防災などの教育を行ってきた。26年度から本学私費研究留学生及び順天堂大学研究留学生も受け入れ始めた。日本社会に親しむため、課外授業として施設訪問（博物館、公園）、小学校訪問、施設見学旅行（一泊二日、箱根）も行っている。研究活動を行っていく上で必要となる基礎的医歯学用語や臨床現場に必要な簡単な医療会話の能力の習得も目指している。平成26年度前期は本学13人（うちブラジル1人は東邦大学進学）と順天堂大学1人（ホンジュラス）の合計14人を受け入れ、14人が修了した。平成26年度後期は本学学生のみ16人を受け入れ、12人が修了した。

①修了学生

前期（第27期）

14人（タイ3人 ミャンマー5人 モンゴル1人 ハイチ1人
ベトナム1人 ブラジル1人 エジプト1人 ホンジュラス1人）

後期（第28期）

12人（ベトナム2人 ガーナ2人 ミャンマー2人 タイ1人
バングラデシュ1人 カナダ1人 ラオス1人 エクアドル1人
中国1人）

平成26年度前期閉講式

平成26年9月30日



TMOU 平成26年度前期（第27期）東京医科歯科大学国際交流センター日本語研修コース 閉講式 2014年9月30日

平成26年度後期閉講式

平成27年3月30日



TMOU 平成26年度後期（第28期）東京医科歯科大学国際交流センター日本語研修コース 閉講式 2015年3月30日

②使用教科書

初級日本語 げんき I, II (The Japan Times)

③時間割と担当教員

平成26年度前期

	月	火	水	木	金
9:00	文法 1 平形裕紀子	会話 大北葉子	読解漢字 2 西川礼子	ドリル 2 大北葉子	読解漢字 2 大北葉子
10:40	ドリル 1 平形裕紀子	読解漢字 1 泉谷双蔵	文法 1 西川礼子	会話 鶴見千津子	テスト 大北葉子
13:10	聴解 萩原明子	演習 泉谷双蔵	ドリル 1 泉谷双蔵	読解漢字 1 鶴見千津子	
14:50	ドリル 2 萩原明子		聴解 泉谷双蔵		

平成26年度後期

	月	火	水	木	金
9:00	文法 1 平形裕紀子	会話 大北葉子	読解漢字 2 西川礼子	ドリル 2 米本和弘	読解漢字 2 大北葉子
10:40	ドリル 1 平形裕紀子	読解漢字 1 大北葉子	文法 1 西川礼子	会話 鶴見千津子	テスト 大北葉子
13:10	聴解 萩原明子	演習 米本和弘	ドリル 1 米本和弘	読解漢字 1 鶴見千津子	
14:50	ドリル 2 萩原明子		聴解 米本和弘		

④課外授業

国立科学博物館



防災館（池袋）



書き初め/節分



施設見学旅行（箱根）



2-1-2. 日本語補講コース

本学の留学生が、医歯学系学生にとって必要な日本語を継続的に学習し、教育、研究又は臨床活動に積極的に参加できるようになることを目的として、夕方の時間帯に開講している。26年度は順天堂大学大学院生9人が日本語クラスを受講した。

①日本語補講クラスレベル一覧

	総合	目的別	医療
初級1	B1		
初級2	B2		
初級復習	BR		
初中級	総合初中級	能力試験	医療用語
中級	総合中級		
上級			

②時間割と担当教員

平成26年度前期

曜日	教室	16:30-18:00	18:10-19:40
月	#1	能力試験対策：泉谷	
	#2	B1：平形	B2：平形
	視聴覚		医療用語：大北

火	#2	B1：泉谷	B2：泉谷
木	#2	B1：有馬	B2：有馬

平成26年度後期

曜日	教室	16:30-18:00	18:10-19:40
月	#2	B1：平形	B2：平形
	ラウンジ	BR：米本	
	視聴覚		医療用語：大北
火	#2	B1：米本	B2：米本
	ラウンジ		中級：大北
木	#2	B1：有馬	B2：有馬

③クラス別登録者数

クラス名	略名	前期	後期
初級1	B1	5(1)	19(2)
初級2	B2	9(2)	9(2)
初級復習	BR	0	21(4)
中級	IL	0	30(4)
能力試験	JLPT	16(6)	N/A
医療用語	MT	25(6)	17(2)

(括弧内は順天堂大学の学生)

*以上の国際交流センターでの教育のほかに、センター所属教員が、教養部（学部1年生）において日本語・日本事情教育、セミナー教育（いずれも単位取得科目となっている）を行っている。

2-1-3. 留学生による「お国紹介」

外国人留学生と日本人との国際理解推進のため、毎月最終木曜日の昼休みに留学生による母国の紹介を行った。留学生の日本語学習の成果を披露する機会でもあり、留学生は日本語で母国についてプレゼンテーションを行った。

平成26年度に行われたお国紹介は次のとおりである。

	月日	国	発表者
1	平成26年4月25日	ミャンマー	ミョー チョウ テ スウェー ジン エイ
2	平成26年6月6日	ベトナム	グエン クイー アン ホー グエン エン ティ ホアン
3	平成26年6月27日	タイ	パイサンコブリット ビブル カボーサヤ ボーサヤ グアソム スパク、 サワガルン ワンラダ

			ビボーンヤセク スティーラ
4	平成26年 7 月22日	ホンジュラス	シルビオ アルマンド コネデラ アギーレ
5	平成26年 9 月25日	ブラジル	フラガ スブリサ ジェシアン
6	平成26年10月30日	タイ	ジャラヌチャート シリマナス カンパン ナニンシャ ノンタセン パワリー
7	平成26年11月28日	ハイチ	ビューボエフ ルーディ
8	平成26年12月19日	ミャンマー	アウン ボーン ミヤット アウン ボボ タイ キン ユパー キョー キン ウィン ザン ス ス レイ モン
9	平成27年 1 月29日	エジプト	サイド モハマド モスタファ
10	平成27年 2 月26日	ベトナム	ルオ ダオ ミン グエン

ベトナム



ホンジュラス



ミャンマー



エジプト



2-2. 補助金等事業

2-2-1. スーパーグローバル大学創成支援事業

本学は、「知と癒しの匠を創造し、国内・国外へと展開し、人々の健康と社会の福祉に貢献する」ミッションを掲げ、医療系機関としてグローバル人材育成及びグローバル研究・協力活動を推進してきた取組みが評価され、平成26年度文部科学省補助金「スーパーグローバル大学創成支援」タイプA（トップ型）に採択された。

この事業は、世界レベルの教育研究を行うトップ大学や、先導的試行に挑戦し我が国の大学の国際化を牽引する大学など、徹底した国際化と大学改革を断行する大学を重点支援することにより、我が国の高等教育の国際競争力を強化することを目的とし、タイプA（トップ型）は、世界ランキングトップ100を目指す力のある大学を支援するものである。

本学の事業構想は、「TMDU型グローバルヘルス推進人材育成構想：地球規模での健康レベル向上への挑戦」とし、日本が、保健医療分野において、世界規模での健康レベル向上に向けて、経験/実績を踏まえて貢献し、世界と共に発展的存続を実現するために中心となって活躍するグローバルヘルス推進人材の育成を行う取組みである。

この取組みとして、①ガバナンス体制強化/教学マネジメント改革を行い、②入学者募集方法から、入試、学士（教養）、学士（専門）、修士/博士課程までを通した全体的な教育改革を行い、③本学海外教育研究協力拠点の拡充/拡大及びそれらを活用した積極的な教育研究を展開する。

そして、これら取組みを通して、①アジアにおける、グローバルヘルス推進人材育成/研究拠点としての地位を確立し、②世界規模の健康課題克服のため、集学的研究による、予防・診断・治療における革新的ソリューションを提供し、③様々な国・地域における課題克服のため、国内外機関と協働し、研究/教育/医療の全チャネルを開いて貢献する、3つのゴールへの到着を目指すとともに、本学における他の様々な取組み・活動を推進し、本学の国際通用性・認知度・国際競争力の向上を図るものである。

①事業の取組み

(1) ガバナンス体制強化

(ア) 事務職員の資質の高度化（2-2-2④(3)(ア)にも記載あり）

英語研修（英会話研修） 平成26年9月～平成27年2月 12名
(TOEICスコアアップ研修) 平成27年1月～3月 20名

語学力を有する事務職員の積極的採用の推進、語学研修機会の提供、人事評価への反映によるインセンティブ化により国際化対応力を高め、27人（平成27年5月1日現在）が外国語力基準を満たした。

(イ) 統合教育機構（仮称）の設置準備

本学の教育ポリシーの正確な反映により教育力の向上を図り、構想実現に向けた実施体制を構築するため、既存の複数の教育部門を統合し、必要な人的リソースや支援も整えた統合教育機構（仮称）を全学組織として新設するための準備・調整・編成を行う統合教育機構検討ワーキンググループを組織し、協議を開始した。

第1回 平成27年2月17日 第2回 平成27年3月17日

(ウ) 統合国際機構（仮称）の設置準備

本学の国際競争力強化、国際戦略策定及び推進、教育課程の国際化、海外派遣学生/海外からの留学生支援強化などを効果的・効率的に断行するために、関連業務に従事する教職員を一括集約した統合国際機構（仮称）を新設するための準備・調整・編成を開始した。

（エ）IR部門の設置準備

統合教育機構設置に向けての準備と平行して、教育情報等を一括して把握・管理し、教育効果や教育評価の分析を通して、教育の質保証と大学マネジメント改革のためのエビデンスを提供するIR部門（仮称）を統合教育機構内に設置すべく、準備・調整・編成を統合教育機構検討ワーキンググループにて開始した。

（オ）大学ブランディングの取組み

国内外に本学の認知度・評判を向上させるため大学紹介動画を作成し、本学の特色ある教育、世界をリードする研究及びその推進体制、そして教育課程の国際化や研究の国際競争力強化などの国際化戦略と取組みを紹介した。また、本学の国際的地位向上及び知名度向上のため、国内外の本学アラムナイや本学教員との共同研究者などに、グリーティングカードとともに広報誌や英語版本学年報を送付した。

（カ）情報発信（2-2-2④(5)(イ)にも記載あり）

本事業の取組みを広く国内外へと情報を発信するため、「医療分野でのグローバル人材育成」をテーマとした国際フォーラムを開催した。フォーラムでは、佐野文部科学省大臣官房審議官（高等教育担当）による基調講演の後、本学、新潟大学、ソウル国立大学、そしてチュラロンコーン大学におけるグローバル教育・グローバル人材育成の紹介があり、最後に「医療系グローバル人材育成における大学の役割と取組み」に関するパネルディスカッションを行った。教育関係者、企業関係者、高校生など合計70名が参加した。

日時：平成27年3月21日（土）

場所：医学部医学科講義室2

（キ）外国人OBの情報のSNS/留学生管理サービスの導入

本学の帰国外国人留学生が多いアジア諸国を中心に、国別の本学OB同窓会組織設立/拡充を進めるための第1ステップとして、帰国留学生とのネットワークを構築し、留学生情報を一元的に管理するため、SNS/留学生管理サービスを導入し、平成26年度末現在で1,432件の登録がある。

（2）教育改革

（ア）反転授業導入準備

学生の実質的学びの時間を確保すべく学士（教養）課程における反転授業の導入のための調査及び検討を、反転授業推進ワーキンググループを組織し、協議を開始した。

第1回 平成27年3月17日

第2回 平成27年3月24日 第3回 平成27年3月31日

（イ）学生の主体的参加と大学運営への反映の促進に関する検討

医学部医学科においては、学生の主体的参加と大学運営への反映を促進させるため、教育委員会又はその下部組織・専門委員会などへの、学生の常任委員としての参加規模拡大について検討を開始した。

(ウ) 多面的入学者選抜方法等の検討

学部入学試験の語学力評価への TOEFL 活用や国際バカロレアによる入学枠設置等について入学試験ワーキンググループで検討を進めた。

(エ) 少人数リーダー養成英語選抜プログラム (HSLP)

少人数リーダー養成英語選抜プログラムHSLP (Health Sciences Leadership Program) の拡充及び取組規模拡大に向けた検討・準備 (カリキュラム及び学習環境) を開始した。平成28年度より学士課程HSLP規模拡大 (22→30人/学年)、さらに同年度より大学院版HSLP (修士/博士課程学生対象) を開講予定である。

(オ) 大学院留学生の増加

シラバスの二ヶ国語化、コースワークの英語化、海外リクルート強化、英語履修コースの設置などの改革を行う。外国人留学生数は、平成25年度 (平成25年5月1日現在) 215人から平成26年度 (平成26年5月1日) 222人と僅かだが増数となった。

(カ) グローバルヘルスリーダー養成コース (仮称) (修士/博士課程) 準備

コース開設において中心的役割を果たすグローバルヘルス関連大学院分野教員/ユニット誘致のための具体的な候補者選定にむけて、グローバルヘルス分野における世界的トップ機関に赴き議論を開始した。

期間：平成27年3月23日～30日

訪問先：南カルフォルニア大学、
カルフォルニア大学サンフランシスコ校、同大学バークレー校、
同大学ロサンゼルス校

(キ) 英語教育カリキュラム作成のための調査

海外トップクラス大学等に関連取組事例やカリキュラム等を調査及び視察を行った。

期間：平成27年3月16日～24日

訪問先：オレゴン大学、シアトル大学、ワシントン大学

(3) 集学的グローバルヘルス研究・教育・国際貢献活動の展開

(ア) 全学生に占める外国人留学生の割合

学士課程では研究/臨床実習などを行う短期留学生、修士/博士課程では長期留学生の増数に向け、シラバスの二ヶ国語化、コースワークの英語化、海外リクルート強化、英語履修コースの設置など、様々な改革を進めている。外国人留学生数において、平成26年5月1日で222人及び平成26年度 (通年) で380人の実績で、すでに目標数を上回った。

(イ) 留学の動機付け

入学直後の英語模擬交渉ワークショップ、帰国した上級生からの報告会、海外からの留学生との交流イベントなどで動機付けを行い、留学機会拡大を図っている。グローバルに活躍する本学卒業生らを招いて、ロ

ールモデル発見・キャリア形成支援・コミュニティ形成・ネットワーク形成支援を目的とした情報交換・交流機会として、キャリア形成支援交流イベント（“Find-Your-Role-Model” sessions）を9回行い、合計168名が参加し、良きロールモデルを得るとともに在学生間でのネットワーキングも行われ、志を同じくする者達によるコミュニティの形成が図られた。

平成26年度は単位取得を伴う海外留学経験者は、学部生218人、大学院生21人と大幅増数が見られた。

➤英語模擬交渉ワークショップ（GCW）（2－2－2①（1）（イ）iiにも記載あり）

1回	平成26年5月17日	2回	平成26年5月24日
3回	平成26年5月31日	4回	平成26年6月14日

➤ハーバード研究報告会 平成26年9月16日

➤インペリアル大学との交流会 平成26年4月19日

➤ソウル大学との交流会 平成26年7月14日

➤Find-Your-Role-Model sessions（FYRM）

（2－2－2③（1）（ア）にも記載あり）

第8回	平成26年4月24日	第9回	平成26年6月9日
第10回	平成26年7月3日	第11回	平成26年7月15日
第12回	平成26年7月28日	第13回	平成26年11月27日
第14回	平成26年12月11日	第15回	平成27年2月5日
第16回	平成27年3月12日		

（ウ）外国語による授業科目の増加への取組み

学士課程ではグローバルヘルス推進人材の基盤となる人文社会系科目を中心に二カ国語履修化を進めるべく、「教養教育改革に関する検討会」において議論及び調査を開始した。また修士/博士課程では既存コースワークの英語履修化を進める。

平成26年度において、外国語による授業科目数は、学部は14科目、大学院は286科目といずれも順調に増数となった。

（エ）TOEFL試験・TOEFL集中講座の実施

➤TOEFL集中講座（2－2－2③（2）（イ）にも記載あり）

夏コース 平成26年8月4日～8日、8月11日～15日、
平成26年8月18日～22日、8月25日～29日

インドネシア派遣コース 平成26年10月3日～12月12日

春コース 平成27年2月23日～27日、平成27年3月2日～6日
平成27年3月9日～13日

➤大学院生のTOEFL試験：

学生の語学レベルの測定・把握、向上のため、学士課程学生においては、TOEFL集中特訓コースを本学にて提供した。夏コース学生85名、インドネシア・ベトナム派遣学生9名、春コース学生42名の参加があり、いずれも受講後にTOEFL受験を必須とし、本学外国語力基準達成者数

が336人となり順調に増した。

期間：平成27年3月10日、11日、13日、16日、17日

参加者：306人

また、修士/博士課程学生においては、語学レベル測定を新規で実施し、本学外国語力基準の達成者数は46人であった。

(オ) 留学派遣支援

授業料相互不徴収による学部及び大学間学生交流協定の締結校増数を図り、新規に6機関と締結した。

➤国際交流協定数： 76大学

また、学部学生海外研修奨励賞、大学院学生研究奨励賞、学部学生海外拠点派遣助成制度等の大学基金を用いた奨学金制度を整備・拡充し、平成26年度において、以下の人数に奨学金を授与した。さらに日本学生支援機構海外留学支援制度（短期派遣）では、以下の人数に奨学金を支給した。

➤奨学金制度：学部学生海外研修奨励賞（合計10名）

大学院学生研究奨励賞（合計4名）

学部学生海外拠点派遣助成制度（合計8名）

日本学生支援機構海外留学支援制度（短期派遣）（合計62名）

(カ) Global Health Learning Opportunities (GHLO) に正式加盟

学士課程受入留学生の増数に向け、海外臨床学習機会提供ネットワーク Global Health Learning Opportunities (GHLO) に正式加盟のための協議・手続きを進めた。加盟により、今後多くの加盟校から優秀な留学生の受入増が期待できる。

(キ) ジョイント・ディグリー・プログラム

海外拠点にて連携している現地教育機関（チリ大学及びチュラロンコン大学）と平成28年度にジョイント・ディグリー・プログラムを開講するため、平成27年3月に文部科学省に設置申請を行った。

2-2-2. 経済社会の発展を牽引するグローバル人材育成支援事業

「国際感覚と国際競争力に優れる人材を養成する」という理念の実現のために、本学がこれまで行ってきた国際化の推進、国際交流の推進に向けての取組みが評価され、平成24年度文部科学省補助金「経済社会の発展を牽引するグローバル人材育成支援事業」タイプB特色型（旧「グローバル人材育成推進事業」タイプB特色型）に採択された。「経済社会の発展を牽引するグローバル人材育成支援事業」とは、若い世代の「内向き志向」を克服し、国際的な産業競争力の向上や、国と国との絆の強化の基盤として、グローバルな舞台に積極的に挑戦し活躍できる人材の育成を図るため、大学教育のグローバル化のための体制整備を推進することを目的としたもので、平成24年度から平成28年度にわたる補助金事業である。全国で152件の応募があり、本学を含めた42校が採択された。なお、医療系大学として採択されたのは本学のみであり、医療系学部学科を含めた取組みとしての採択も5校のみと限られ、医療系教育機関におけるグローバル人材育成の拠点大学となっていくことが期待されている。

本学の取組みは、グローバル化が進む中で、①医療の国際標準化及び国際協調の観点から必要度の増す医療人の英語（必要最低限の一般英語及び専門分野の英語）運用力の底上げを図ること（ボトムアップ教育）、②成熟した国家である日本が主要先進国として生命科学研究・国際保健/医療政策・国際協力/医療観光等医療産業分野において世界を支え牽引していくために中心的役割を担うグローバルリーダーを育成すること（リーダー育成教育）、を目的としており、そのために以下に挙げる取組みを行っている。また、これら取組みを支える基盤強化のための取組みも行っている。

内的動機付けのための取組み：

(1) 入学前

➤オープンキャンパスでの本学グローバル教育紹介

(2) 入学直後

➤入学直後の合宿研修での本学グローバル教育紹介

➤Global Communication Workshop (GCW)

➤海外留学生選考におけるTOEFL 基準を設置

目的①の達成のための取組み：

(1) 語学力アップ及びスキルアップ

➤専門教育期間における必修語学（英語）科目の運用力の強化

➤外部英語試験（TOEFL）の実施

(2) 専門領域英語運用力強化

➤専門課程全科目最終試験問題の一部英語化

目的②の達成のための取組み：

- (1) キャリア形成支援
 - Find-Your-Role-Model sessions
 - ディスカッション・カフェ
- (2) スキルアップ
 - 選択科目の提供
 - TOEFL 集中特訓コース
 - 英語プライベートレッスン
 - 批判的思考特訓 (Critical thinking bootcamp)
 - デザイン思考特訓 (Design thinking bootcamp)
 - MELTワークショップ
- (3) 海外留学
 - 留学機会の創出・拡大
 - 留学への動機付け
 - 留学前準備教育の充実
 - ✓Academic Skill for Successful Exchange Research sTudents Course (ASSERT)
 - ✓Fit for Overseas Clerkship oportunities Course (FOCUS)
 - ✓Be Ready for International Dental Externships Course (BRIDgE)
- (4) リーダー養成英語選抜プログラム
 - Health Sciences Leadership Program (HSLP)

本取組みの推進のために、学部/学科を超えた組織としてグローバル人材育成推進事業推進委員会を設置し、教育担当理事の陪席のもと、企画立案、環境整備、部門間調整等の具体的業務を行った。そして取組みの実動部隊としてグローバルキャリア支援室を組織し、平成24年12月より活動を開始している。

①内的動機付けのための取組み

- (1) 入学前
 - (ア) オープンキャンパスでの本学グローバル教育紹介
期間：平成26年 8 月 4 日～ 5 日

オープンキャンパスにおいて、グローバルな視野・グローバルなキャリア志向の強い入学生獲得に向けて、海外留学プログラムや、本学の様々なグローバル人材育成取組みを紹介した。

- (イ) 入学直後
 - i. 新入生合宿研修での本学グローバル教育紹介
期間：平成26年 4 月10日～11日

入学直後の新入生合宿研修において、海外留学プログラムや、本学の様々なグローバル人材育成取組みを紹介し、グローバルなキャリアに向けた内的動機付けを行った。

ii. Global Communication Workshop (GCW) (2 - 2 - 1 ①(3) (イ)にも記載あり)

日時:平成26年5月17日、24日、31日、6月14日

入学後間もない第1学年の全学生を対象とし、国際保健問題に関する英語模擬交渉ワークショップ (Global Communication Workshop) を開催した。これは、①語学力・論理的思考力の重要性を理解する、②その後本学において提供される様々な学習機会を十分に活用して、語学力及び論理的思考力の向上に向けて主体的・自発的に取り組むよう内的動機付けを図る、③健康/医療に関するグローバルな問題の重要性を認識し、当該領域に関する理解を深める機会を提供する、を目的としたもので、本学の外国人大学院留学生の協力を得て混成小グループで行うことにより人種/文化的多様環境を創出している。参加は任意だが、参加を本学の提供する海外留学プログラムやHSLPへの応募における必須要件としたこともあり、全学科1年生合計282名のうち144名(51.1%)が参加した。事後調査では、参加した学生の満足度がとても高く、また参加者における語学力/批判的思考力などグローバル人材に必要なスキルの必要性の認識が高まったことが示された。



iii.海外留学者選考におけるTOEFL基準を設置

リーダー育成におけるコンピテンシーの獲得のために最も効果的な方法は、意欲の高い学生に対し、意欲の高い時期に、効果的な学習をさせることであるとの論理に基づき、リーダー育成コンピテンシーにおける英語運用力に関する目標到達支援のための動機付けとして、海外留学プログラム派遣者選考に際してのTOEFL基準を設定した。

②ボトムアップ教育のための取組（目的1）

(1) 語学力アップ及びスキルアップ

(ア) 専門教育期間における必修語学（英語）科目の運用力の強化

教養教育期間に加え、以下に挙げる専門教育期間の必修語学科目においては、本事業担当教員がその企画・運営に参画し、英語の語学力アップだけでなく、医療/健康領域や、関連専門領域の語彙及びトピックへの理解を深めるとともに、コミュニケーションスキル・思考力・グローバルな視野の獲得などスキルアップも到達目標に含めた教育を行った。特に、医学科、歯学科専門課程における英語教育科目「グローバル・コミュニケーション」において、到達目標の再設定を行い、①英語医学情報読解能力、情報発信及び議論力、②批判的思考力、③英語による世界の医療/健康事情の把握と広い視野の獲得と設定し、英語を母語とする教員の増員を図り（学生10人あたり教員1名）、外国人留学生、チューターも動員し、グループ議論/ディベートを主とした学習形態へと転換した。

➤Global Communication for healthcare professionals（医学科及び歯学科第2～4学年）

➤英文講読1・2（保健衛生学科看護学専攻第2・3学年）

➤医学英語演習1・2（保健衛生学科検査学専攻第2・3学年）

➤科学英語1（口腔保健学科口腔保健衛生学専攻第2学年）

➤科学英語1・2（口腔保健学科口腔保健工学専攻第2・3学年）

➤口腔保健工学概論B（口腔保健学科口腔保健工学専攻第2学年）

(イ) 外部英語試験（TOEFL）の実施

入学直後に新入生全員に対してプレースメントテストとして、TOEFL-ITPを実施し、正規/課外の様々な語学教育・グローバル教育機会において習熟度別語学クラス編成を行い、効果的な学習環境を用意した。また高学年においてもTOEFL-ITPを実施し（保健衛生学科第2/3学年、歯学科第2/3/4/6学年、口腔保健学

科第2/3学年に実施)、語学力の推移の定点観測を行うとともに、語学学習方法の改善点の同定につとめた。

(2) 専門領域英語運用力強化

(ア) 専門課程全科目最終試験問題の一部英語化

医療専門職業人として災害や流行病の際に他国の同業者と必要最低限の情報交換を世界共通言語(英語)で行える必要があるとの認識から、それぞれの専門領域の用語について日本語のみでなく英語表記及び発音ができることを卒業時コンピテンシーとした。そして、専門教育期間の外国語必修科目においてそれら用語の学習を行うとともに、全学科・専攻における専門科目においても両言語にて教え、更に専門科目最終試験の一部を英語化することにより、学生の外的動機付けを行うこととし、一斉導入された。

③グローバルリーダー育成の取組み(目的2)

(1) キャリア形成支援

(ア) Find-Your-Role-Model sessions (2-2-1 ①(3)(イ)にも記載あり)

グローバルに活躍する本学卒業生らを招いて、ロールモデル発見・キャリア形成支援・コミュニティ形成・ネットワーク形成支援を目的とした情報交換・交流機会として、キャリア形成支援交流イベント(“Find-Your-Role-Model” sessions)を以下のように9回行い、合計168名が参加し、良きロールモデルを得るとともに在学生間でのネットワーキングも行われ、志を同じくする者達によるコミュニティの形成が図られた。

第8回 平成26年4月24日

ハーバードメディカルスクール第4学年

Sae Takada 氏

第9回 平成26年6月9日

厚生労働省健康局結核感染症課新型インフルエンザ
対策推進室

岡 邦子 氏

第10回 平成26年7月3日

ブリガムアンドウィメンズ病院内科研修プログラム
チーフレジデント

Kevin Ard 医師

第11回 平成26年7月15日

ブリガムアンドウィメンズ病院内分泌代謝科フェロ
ー

Ole-Petter Hamnvik 医師

第12回 平成26年 7 月 28 日

国際労働機関 (ILO)

川上 剛 氏

第13回 平成26年11月27日

Massachusetts General Hospital麻酔科レジデント

前田 歩 氏

第14回 平成26年12月11日

本学大学院医歯学総合研究科疾患多様性遺伝学分野
テニユアトラック講師

浦山 ケビン 氏

第15回 平成27年 2 月 5 日

エーザイ株式会社 常務執行役員

スチュアート・ギアリー氏

第16回 平成27年 3 月 12 日

ネバダ大学医学部呼吸器内科/集中治療医学分野主
任教授

重光 秀信 氏



(イ) ディスカッション・カフェ

早稲田大学×TMDU

(第2回) 日時：平成26年6月28日

場所：東京医科歯科大学

テーマ：日本の出生率低下

(第3回) 日時：平成27年1月31日

場所：東京医科歯科大学

テーマ：医療における不平等

インペリアルカレッジ×TMDU

日時：平成26年 4 月 19 日

場所：東京医科歯科大学

テーマ：医師のワークライフバランスについて

平成25年7月に、グローバル人材育成を中心とした包括協定を早稲田大学と締結した。これに基づく活動として、外国人留学生と日本人学生の課外交流機会（ディスカッション・カフェ）を早稲田大学と共同で創出した。教職員による管理/支援のもと、学生タスクフォースを組織し、彼らが企画/運営を主体的に行う形をとった。キャンパスにおける文化的多様環境の創出と、国際保健問題の複雑さや、批判的思考力/対人スキル/語学力の必要性の認識を目的とした。本学と早稲田大学とのディスカッション・カフェでは、第2回は40名、第3回は29名が参加した。

また、本学と協定校であるインペリアル・カレッジ・ロンドンとも同様の趣旨・形式による交流機会「ディスカッション・カフェ」を企画・実施し、同大学からの留学生4名と本学学生28名が参加した。

両プログラムとも参加者の満足度がとても高かった。



(2) スキルアップ

(ア) 選択科目の提供

専門教育期間においては、必修語学（英語）科目に加えて選択科目として、英語の語学力・コミュニケーションスキル、思考力などの獲得を到達目標に含めた科目を提供した。

- 英文講読3（保健衛生学科看護学専攻第4学年）
- 実践看護英語（保健衛生学科看護学専攻第2・3学年）
- English for Health Care Sciences 1/2（保健衛生学科検査技術学専攻第2・3・4学年）
- Global Communication 3（保健衛生学科検査技術学専攻第4学年）
- 科学英語2（口腔保健学科口腔保健衛生学専攻第2学年）

(イ) **TOEFL集中特訓コース** (2-2-1 ①(3)(エ)にも記載あり)

期間：(夏コース) 平成26年8月4日～8日
平成26年8月11日～15日
平成26年8月18日～22日
平成26年8月25日～29日



(インドネシア・ベトナム派遣)

平成26年10月3日～12月12日

(春コース) 平成27年2月23日～27日
平成27年3月2日～6日
平成27年3月9日～13日

学部学生の英語運用力向上及び**TOEFL**スコアアップのため、**TOEFL**集中特訓コースを本学にて提供した。夏コース学生85名、インドネシア・ベトナム派遣学生9名、春コース学生42名の参加があり、いずれも受講後に**TOEFL**受検を必須とし、プログラム評価を行った。

(ウ) **英語プライベートレッスン**

期間：平成26年12月1日～平成27年3月12日

平成25及び26年度**HSLP**履修生の英語コミュニケーションスキルアップ及び論理的思考力向上のため、個別特訓機会を提供し、学生14名が参加した。

(エ) **批判的思考特訓 (Critical thinking bootcamp)**

期間：(秋コース) 平成26年10月18日～19日
(春コース) 平成27年3月27日～28日

秋コースは、**HSLP**選抜者の18名、春コースは、来年度海外留学派遣予定者及び**HSLP**選抜者の25名を対象として、クリティカルシンキングに精通するための能力を養成するプログラムをすべて英語で行った。

(オ) **デザイン思考特訓 (Design thinking bootcamp)**

期間：(冬コース) 平成27年2月23日～24日

HSLP履修生及び本学学生19名に対して、使用言語を英語のみとして、イノベーション手法として世界的に注目されているデザイン思考のエッセンスとともにイノベーションの創出に向けて協働して取り

組むにおいて不可欠なリーダーシップ・スキルを、演習やミニプロジェクトなどを通じて実践的に学べるワークショップを開催した。

(カ) MELTワークショップ

期間：平成26年10月18日～19日

第2期HSLP履修者生を対象として、MELT

(Mindset/EQ/Leadership/Team Building)の包括的なトレーニング実施を目的として、リスクテキングや挑戦意欲を奨励するラボ的空間で学びを行動へとつなげる体験学習法に基づくワークショップ形式で実施し、14名が参加した。

(3) 海外留学

(ア) 留学機会の創出・拡大

医療系の学士課程カリキュラムは、そのほとんどが必須科目で埋められており、長期間の海外留学は休学しない限り極めて難しいが、本学では、医療系学士課程カリキュラムにおいても現実可能な海外留学形態を模索し、そしてよりきめ細やかな指導を受けられ、将来のキャリア構築にとって効果の大きい形として、研究実習及び臨床実習という留学形態を考案し、各学科/専攻においてそれを可能にするカリキュラム改革を行ってきた。具体的には、医学部医学科及び歯学部歯学科ではいずれも4学年において研究実習科目を設置し、同科目の学修活動として、海外の研究機関にての単位認定を伴う研究実習留学を可能とした。また医学部医学科の臨床実習では、必修及び選択プログラムを4週間単位でローテートするが、その内の一部を海外で履修（臨床実習留学）可能とした。

そして、研究実習留学の留学先は、本学海外教育研究拠点や海外提携校及び非提携校（学生が直接交渉）、また臨床実習留学の留学先は、海外提携校及び非提携校（学生が直接応募）である。留学機会の拡大のために海外提携校の増数に努めており、平成26年5月現在で77大学と国際交流協定を締結している。平成26年度卒業生では医学科で25.7%、歯学科で46.7%、全体で32.8%が海外留学経験を持つ。また、医学科では更なる臨床実習留学の留学先確保のために、米国医科大学協会が設立する海外学修機会提供ネットワーク（Global Health Learning Opportunities, GHLO）への加盟のための協議・手続きを進めた。

(イ) 留学への動機付け

各学科/専攻において、研究実習留学、臨床実習留学などを終え帰

国した学生による留学報告会を定期的を開催した。ここでは、長期的キャリア構築の視点からの留学の意義について意見交換や、また、本学における教育カリキュラムに対する提言に基づく意見交換も行われた。

また、医学部医学科では、第1学年専門必修科目「医学導入」の2限を用い、研究実習留学、臨床実習留学の全プログラムに参加した上級生に経験と得たものを語ってもらい、その後上級生も参加した混成小グループにて卒前海外留学の意義を議論する機会を設けた。

(ウ) 留学前準備教育の充実

➤「ASSERT (Academic Skills for Successful Exchange Research sTudents) Course」

期間：(ワークショップ) 平成26年3月28～29日

(セッション) 平成26年4月10日、17日、24日、
5月1日、8日、15日、22日

4週間以上の研究実習留学参加予定学生を対象とした派遣前準備教育ASSERTコースを実施した。他国の医療専門職教育期間の上級学年生に匹敵するアカデミックスキルの獲得を支援することを目的としたもので、批判的思考力、論理的思考力、分析力、プレゼンテーション力、積極的に議論する姿勢、そしてグローバルな視野の獲得・洗練を到達目標として掲げ、完全英語履修で、毎週1日夕方の90分の学習を合計7回行い23人が受講した。

➤「FOCUS (Fit for Overseas Clerkship opportunity) Course」

期間:平成26年9月11日～平成27年3月19日

医学部医学科生臨床実習留学参加予定学生を対象とした派遣前準備教育FOCUSコースを実施した。英語圏先進国医学校最終学年学生に期待される臨床スキル、患者管理スキル、コミュニケーションスキルを獲得することを目的としたもので、英語での病床聴取、身体診察、口頭及び文書プレゼンテーション、そして高い臨床推論能力の獲得・洗練を到達目標として掲げ、派遣前7ヶ月に渡り、毎週1日夕方120分を用い英語での臨床技能特訓を行った。米国医師免許/内科専門医資格を持つ教員と、米国人で米国看護師資格を持つ教員、そして本学卒業生で在学時ハーバード医学校での臨床実習留学参加経験のある教員が指導にあたった。医学部医学科5年生が15名(うち3名は別枠)受講した。

(4) リーダー養成のための選抜プログラム (HSLP)

生命科学研究・国際保健/医療政策・医療産業分野において世界を支え牽引していくために中心的役割を担うグローバルリーダーを育成する本学構想の目的の確実な達成のための旗艦的取組みとして、本学学士課程に入学する学生で、グローバルな視野を持ち、グローバルな医療系キャリアに向けての志の特に強い学生を対象とした、複数年に渡るリーダー養成選抜プログラムHealth Sciences Leadership Program (HSLP) を平成25年10月より開講した。

このプログラムは、育成する人材に必要な資質である基礎/社会/臨床医歯学知識、関連する社会科学系知識（政治/経済/哲学/社会学など）とその対応力、批判的思考力、探究/分析力、口頭/文書



コミュニケーション能力、創造的思考力、リーダーシップ・スキルなどの獲得を支援するものであり、履修生は第1～3年次まで週1日夕方の全体学習と、様々なワークショップやプロジェクトを通してコンピテンシー習得につとめ、本コースに海外留学を必須として視野を広げスキルを更に磨くとともに、第4年次以降はチューターとして後輩の指導にあたる。教員による密なメンタリングや個人レベルでの語学学習支援なども提供する。グローバルに活躍する卒業生などとのネットワーク形成機会も豊富に用意し、志を同じくする在校生/卒業生によるコミュニティの形成を図る。英語のみにて学習する。

平成26年春に第1期生に加え、本学医学部、歯学部第2学年在籍予定の学生及び医学科学士課程編入生を対象とした追加募集を行い、8名の応募があり3名を選抜した。また、平成26年秋には第2期生の募集・専攻を行い、23名の応募があり、15名を選抜した。

平成26年12月には全履修生及びグローバルキャリア支援室教員を一同に介しての第2回リトリートを開催し、学生間及び学生・教員間で親睦を深め、HSLPで学ぶ学生の将来ビジョンやそれに向けた取組み、活躍の様子などを共有し、相互刺激/支援の精神の醸成を図った。

平成27年2月に第2期生に加え、本学医学部、歯学部第2学年在籍予定の学生及び医学科学士課程編入生を対象とした追加募集を行い、8名の応募があり6名を選抜した。

④事業を支える基盤強化のための取組み

(1) 教員研修

(ア) 医学部医学科及び大学院医歯学総合研究科（医系）合同新規採用教員研修

期間：平成26年7月8日

Kolbの経験学習理論を含む成人学習理論を紹介・講義の工夫につき議論し、効果的な講義を計画・実施できる能力の養成を図った。

(イ) 外国人教員の招へい

グローバル教育力向上及び教育体制の国際通用性向上を目的とし、ハーバード大学関連病院であるブリガムアンドウィメンズ病院内科研修プログラムと提携し、本学・本院では学習機会が限られている「主要な症候に対するプライマリーアプローチ」を主とした総合内科学習や臨床感染症学習機会の提供、本学における医学教育やグローバル教育に関する第三者評価・助言等、さらに教員研修講師担当等を目的として、平成26年度は教員を2名招へいした。具体的活動内容を下に記したが、それらに加え、ソクラティックメソッドを用いた批判的思考力養成に優れた双方向型授業の実演を通じた教員研修を13回実施した。

・ブリガムアンドウィメンズ病院内科研修プログラムチーフレジデント

Kevin Ard氏

期間：平成26年6月29日～7月11日

感染症専門医の視点から医学科臨床導入実習における医療面接・身体診察能力養成プログラム開発についてのコンサルティング、臨床実習派遣予定学生への準備教育プログラムに対応した実践的な講義、医学科及び医歯学融合教育における医学英語教育カリキュラムへの協力及び評価・助言を行った。



・ブリガムアンドウィメンズ病院内分泌代謝内科フェロー

Ole-Petter Hamnvik氏

期間：平成26年7月5日～19日

内分泌代謝専門医及び内科研修プログラム
ム前チーフレジデントの視点から医学科臨床
導入実習における医療面接・身体診察能力
養成プログラム開発についてのコンサルティング、
臨床実習派遣予定学生への準備教育
プログラムに対応した実践的な講義、医学科
及び医歯学融合教育における医学英語教育
カリキュラムへの協力及び評価・助言を行った。



(ウ) PHIリーダーシップコース教員研修（全学）

期間：平成26年9月21日～平成26年10月2日

教員の個人の教育力向上と大学の教育水準向上のため、医学系、歯学系の教員15名をハーバード大学に派遣し、3グループに分かれ、臨床医学及び基礎医学の統合・新カリキュラムにおける臨床実習プログラムの構築・医歯学融合教育における学科間連携教育に関するカリキュラム作成等のグループ毎の課題に取り組んだ。個人レベルでの教育スキルアップが図られ、医歯学の教育カリキュラムに関する提案を策定した。

(エ) Global Communication for Health Care Professionals

Assessment for Critical Thinking Workplan

学部学生への医学英語教育に関し、クリティカルシンキングを向上させる授業における担当教員の授業スキル向上の必要があるため、授業を担当する教員14名に対しての、個別評価と、フィードバック、クリティカルシンキング教育のための教員研修を外部教育機関に委託した。

(2) 留学支援

(ア) 留学に関するワンストップ・サービス

留学に関する情報や奨学金に関する一元的な情報提供/支援のほか、留学募集から決定、留学手続き、連絡先/連絡方法の一元管理、留学中から帰国後の手続きまでの学生の海外留学に関する支援業務を一括して管理/支援する「留学生支援課 学生海外派遣掛」を新たに設置し、留学に関する「ワンストップ・サービス」を実現させた。

(イ) 海外派遣危機管理

➤学生への留学中の支援

留学前教育を担当したグローバルキャリア支援室教員を中心に本学教員がメンターとして学修面及び身体/精神面に配慮したサポートを行った。また、滞在先の本学関係者がメンターとして支援を行った。

➤海外派遣危機管理

本学学生の留学中の緊急時・災害時対応を含むリスク管理のため、学内での危機管理体制構築/マニュアルを作成し、また日本エマージェンシーアシスタンス(株)の提供する海外派遣危機管理サービスとの契約を更新し、海外派遣学生全員に加入を義務付けた。

(3) 事務職員能力強化

(ア) 英語研修(2-2-1①(1)(ア)にも記載あり)

期間: (英会話研修) 平成26年9月～平成27年2月
(TOEICスコアアップ研修) 平成27年1月～3月

海外留学派遣及び留学生受入れへの事務対応力強化のために、学外語学学校に授業を委託し、グループによる英会話研修を12名、TOEICスコアアップ研修を20名に提供し、受講後、TOEIC試験を行った。

(4) 履修支援環境改善

(ア) 英語版シラバス

留学生の多い修士/博士課程では日本語版とともに英語版シラバスを用意した。

(5) 成果の公表・普及

(ア) ウェブサイト/フェイスブック/ツイッター

本取組み専用のWebsite(www.tmd.ac.jp/global)を改修し、日本語及び英語にて、取組みの実施状況(開催報告、進捗状況報告、開催予定情報提示)についての情報発信を行った。そして、同Websiteの閲覧情報をGoogle Analyticsによりモニターし、改善に努めた。またFacebook(<https://www.facebook.com/TMDUGlobalEducation>)及びTwitter(<https://twitter.com/TMDUGlobalEd>)アカウントも活用し、本取組み専用Websiteとリンクさせ、効率的・

効果的な情報発信に努めた。

(イ) 国際フォーラム開催（２－２－１①(1)(カ)にも記載あり）

期間：平成27年３月21日

「医療系グローバル人材育成における大学の役割と取組」と題したフォーラムを行った。国内外から５人のパネリストを迎え、医療分野において世界で活躍できるグローバル人材の育成について広く議論し、総勢70名の参加があった。

(6) 構想の評価・改善

(ア) 外部評価

北米・欧州・アジア・日本において、医療/医学分野におけるグローバル化を推進している又は精通している人材合計7名よりなる外部評価委員会（組織後、欧州委員が辞退したため現在6人により構成）による本事業の中間評価を平成27年３月21日に行った。

(7) その他

(ア) HSLPコース開講式開催

日時：平成26年10月14日

Health Sciences

Leadership Programの第2期生に対する開講式を、本学M&Dタワー26階のファカルティラウンジにて開催した。式において、田上教育・学生・国際交流担当理事より力強いエールを頂き、履修生16名は医学・医療の分野に変革を起こすべく、世界を相手に、そして世界を舞台に活躍することを目指して、長い道のりに確かな第一歩を踏み出した。



(イ) Go Global Japan Expo参加

日時：平成26年12月21日

文部科学省主催のGo Global Japan Expo（グローバル関連事業採択校47大学の合同進学・留学・キャリアに関する相談・体験イベント）に参加し、本学の取組みの紹介や留学を希望する高校生の質問等に対応した。

(ウ) 東日本第2ブロックイベント

日時：平成26年12月 6 日

東日本第2ブロックイベントとして明治大学において、グローバル人材育成フォーラムが開催された。第二部「グローバル社会における開発と貧困」をテーマに選抜学生チームによる英語プレゼンテーション（第1次選考対象18チーム、本戦8チーム）に本学学生が参加し、準優勝を獲得した。



2-2-3. 大学の世界展開力強化事業

平成24年度に選定された「東南アジア医療・歯科医療ネットワークの構築を目指した大学間交流プログラム」は、東京医科歯科大学が、タイのチュラロンコーン大学、インドネシアのインドネシア大学及びベトナムのホーチミン医科薬科大学と連携してコンソーシアムを形成し、我が国が有する先端的な医療・歯科医療機器や材料、最新の医療・歯科医療技術等を基盤として、東南アジアにおいて大学間交流を推進し、我が国の医歯学領域の世界展開力を強化する取組みである。

本事業の目的は、医歯学領域において、国際的にリーダーシップのとれる自立型の若手研究教育者・医療者を育成する『人材育成』、及び東南アジア各国の主要大学との学術・人材交流を通じて、東南アジア地域における医療・歯科医療ネットワークを形成する『ネットワーク構築』である。事業が始まって3年目となる平成26年度の具体的な活動内容は以下のとおりである。

①国際学会会合の実施

(1) 国際シンポジウム

国際シンポジウムIV「国際交流プログラムを通して学んだこと、考えたこと」

“What We Learned and What We Thought through the International Exchange Programs”

場所：東京医科歯科大学M&Dタワー2階 鈴木章夫記念講堂

日時：2014年10月24日（金） 13:00-16:00



森山歯学部長



歯学科3年
大沼 啓
斎藤夏美（司会）



チュラロンコーン大学学生

(2) 国際セミナー

国際セミナーVII「世界の口腔保健の最新トピックス」

“Latest Topics in Global Oral Health”

場所：歯科外来事務棟4階特別講堂

日時：2014年10月21日（火） 13:00-17:30



②学生交流プログラム（派遣・受入）の実施

平成26年度は、本学全体で50名の本学学生を海外に派遣し、38名の海外学生を受け入れた。

（1）医学部

医学科では、3名の日本人学部学生が5カ月間タイの教員の指導の下で研究プログラムに従事し、4名のタイの学部学生が約1カ月間本学で研究プログラムに従事した。保健衛生学科においても学生派遣と受入れを行った。医学科では、派遣・受入れ共に単位認定が行われた。

（ア）派遣プログラム

	派遣学生	研修内容
プロジェクトセメスター (2014年6月25日～11月21日)	医学科4年3名	チュラロンコーン大学医学部細菌学分野 HIV ウィルス感染研究ラボ、解剖学教室、ドラッグデリバリーシステムの3分野に学生3名がそれぞれ配属され、タイ人教員の指導のもとで基礎研究、文化交流を行った。
タイでの学術交流 (2014年8月18日～27日)	保健衛生学科6名	チュラロンコーン大学附属病院見学、研究室見学及び学術交流、文化交流などを行った。

（イ）受入れプログラム

	受入れ学生	研修内容
保健衛生受入れプログラム (2014年7月29日～8月7日)	チュラロンコーン大学大学院生2名	本学医学部研究室に配属され、病院見学及び本学教員の指導下で研究、学術交流、文化交流などを行った。
保健衛生受入れプログラム (2014年7月29日～8月7日)	チュラロンコーン大学保健衛生学科2名	本学医学部研究室に配属され、体験研究、病院見学、学術交流、本学学生との文化交流などを行った。
医学科学生受入れ (2014年10月13日～16日)	チュラロンコーン大学医学科1名	本学医学部耳鼻咽喉科、救急災害医学分野、整形外科分野、脳神経病態学分野にそれぞれ配属され、本学教員の指導下で研修、学術交流、本学学生との文化交流などを行った。
医学科学生受入れ (2014年11月17日～12月14日)	チュラロンコーン大学医学科1名	
医学科学生受入れ (2015年1月2日～25日)	チュラロンコーン大学医学科1名	
医学科学生受入れ (2015年2月9日～3月9日)	チュラロンコーン大学医学科1名	

(2) 歯学部

歯学部においては交流相手大学としてシーナカリンウィロート大学（タイ）、メルボルン大学（オーストラリア）を追加し、学生派遣と受入れを行った。平成26年度は12名（学部学生9名、大学院生3名）がタイで、13名（学部学生11名、大学院生2名）がインドネシアで、そして9名（学部学生3名、大学院生6名）がベトナムで、7名の学部学生がオーストラリアで歯科研修プログラムに参加した。プログラムに参加した歯学科学生はデンタルエクスターンシップ1単位を取得した。大学院生及び口腔保健学科学生は海外研修への参加を修了要件の一つとして扱った。今年度より、チュラロンコーン大学及びシーナカリンウィロート大学においては単位を認定する制度（但し6年生のみ）が導入された。他の大学においては、検討段階である。

受入れに関しては、タイ、インドネシア、ベトナムから計30名の歯学科学生を2週間同時期に受け入れ、英語による歯科研修プログラム（TMDU Dental Training Program）を実施した。このプログラムでは、日本人学生との交流、小グループに分かれた基礎・臨床分野における研修、歯科関連企業の見学などと共に、歯科領域の専門教育の基礎となる歯型彫刻やワイヤーベンディングに関する4か国の学生による実習コンテストも行い、実践的なプログラムとして実施した。今年度からの新しい取り組みとして、自国の大学においてカリキュラムの一貫として行った自身の研究について英語で口演発表し、コンペティションを行うリサーチデイを追加した。基礎から臨床分野にわたる様々な研究内容について活発な質疑応答が行われた。

(ア) 派遣プログラム

	派遣学生	内容
ホーチミン医科薬科大学 矯正学術交流会 (2014年4月1日～5日)	大学院生6名	ホーチミン医科薬科大学にて矯正セミナーを行い、学術交流、文化交流を行った。
リサーチデイ	歯学部5年6名	チュラロンコーン大学で開催されたリサーチデイに参加し、研究発表、学術交流、文化交流を行った。
オーストラリア歯科研修 プログラム (2014年7月18日～28日)	歯学部6年7名	・メルボルン大学歯学部附属病院見学 ・大学見学 ・ウォーターフロリデーションプラント見学 ・現地歯科事情に関する講義 ・文化交流
グローバルリトリート (2014年8月27日～30日)	歯学科3年7名 口腔保健学科4年4名 大学院生2名 教職員4名 インドネシア大学 学生8名 チュラロンコーン 大学学生6名 教員1名	グローバルリトリートでは寝食を共にし、日本、インドネシア、タイの3カ国の学生が小グループに分かれて「理想の歯科教育」についてディスカッションを行い、成果発表等を行った。文化交流会では各国の学生が伝統的な踊りを披露し、学術交流とともに学生が国際理解を深める活動を行った。
インドネシア歯科研修 プログラム (2014年8月27日～9月8日)	歯学科3年7名 口腔保健学科4年4名 大学院生2名 教職員4名	・インドネシアの歯科保健、歯学教育についての講義 ・インドネシア大学附属病院、開業医、地域の母子保健活動の見学 ・インドネシア在留邦人の幼稚園児を対象に健康教育と保健指導実施 ・日本人学校保護者対象の健康セミナーに参加 ・現地の歯磨剤メーカー訪問 ・スキルスラボでの実習や講義を通してインドネシア大学の歯学教育体験
タイ歯科研修プログラム (2014年8月29日～9月7日)	歯学科4年3名 教員2名	・タイの歯科保健事情を理解するために開業医見学、病院見学 ・地域の歯科保健活動の見学
タイ学術交流 (2015年3月4日～11日)	大学院生3名	チュラロンコーン大学にて、専門分野の研究室を訪れ、学術交流、文化交流を行った。
ベトナム歯科研修プログラム (2015年3月7日～16日)	歯学部3年2名 4年1名	・ベトナムの歯科保健、歯学教育についての講義 ・ホーチミン医科薬科大学大学附属病院、開業医、地域における歯科保健活動の見学 ・現地学生との文化交流



オーストラリア歯科研修プログラム派遣学生



シーナカリンウィロート大学（タイ）を訪問したタイ歯科研修プログラム派遣学生



インドネシア歯科研修プログラム派遣学生

(イ)受入れプログラム

	受入れ学生	研修内容
TMDU 歯科研修プログラム (2014年10月14日～26日)	チュラロンコーン大学、シーナカリンウィロート大学、インドネシア大学、ホーチミン医科薬科大学の歯学部学生合計30名	本学において TMDU 歯科研修プログラムを開催し、日本を含めた4ヵ国5大学の学生のための交流プログラムを実施し、計30名の歯学部生を2週間同時期に受け入れた。日本人学生との交流、小グループでの基礎・臨床分野における研修、歯科関連企業の見学だけでなく、歯科領域の専門教育の基礎となる歯型彫刻やワイヤーベンディングの実習コンテストも行い、実践的なプログラムを実施した。 今年度からの新しい取組みとして、自国の大学においてカリキュラムの一貫として行った自身の研究について英語で口演発表し、コンペティションを行うリサーチデイを追加した。基礎から臨床分野にわたる様々な研究内容について活発な質疑応答が行われた。



TMDU 歯科研修プログラムにおける文化交流

③TOEFL-ITP テスト実施

本学歯学部歯学科、口腔保健学科口腔保健衛生学専攻及び口腔保健工学専攻学生の英語能力を評価し、学生の英語学習へのモチベーションとするため、昨年に引き続きTOEFL-ITPテストを実施した。歯学科は平成26年12月22日、口腔保健衛生学専攻・口腔保健工学専攻は平成26年11月14日に試験を行い、学生の英語力の推移を把握するための基礎データとした。

④今後の学術交流プログラムに関する打合せ

歯科研修プログラム (TMDU Dental Training Program) の引率として来学した3ヵ国4大学の教員4名と、国際教育プログラムに関する打合せ会議を行った。ま

た、タイ、インドネシア、ベトナムへの学生派遣時に引率した本学教員と現地の教員との間で、今後の学術交流プログラムに関する打合せを行った。

⑤事業の広報・普及活動

ホームページの更新を行い、研修の写真や報告書を掲載し、本事業の取組みを紹介した。

⑥グローバルリトリートの開催

インドネシア大学のデポックキャンパスにおいて、2日間のグローバルリトリートを開催した。本学、インドネシア大学及びチュラロンコーン大学の学部学生、教職員が参加した。リトリートでは、参加者全員が寝食を共にし、インドネシアにおける歯学教育に関する講義を受け、「理想の歯学教育」をテーマとしたグループワークを行い、成果発表会を行った。最終日の夜は、3ヵ国からの参加者が伝統的な踊りや文化を紹介する文化交流イベントを開催し、学術交流と共に学生が国際理解を深める活動を行った。

⑦本学における大学院生向け講義（英語）のベトナム同時中継

ホーチミン医科薬科大学大学院では本学のような体系的な大学院講義がない。そのため、臨床、基礎分野に関する本学の大学院講義を聴講したいというニーズは高い。ホーチミン医科薬科大学からの希望もあり、平成26年6月より本学大学院の正規カリキュラムのひとつである大学院講義（全12回）をテレビ会議システムによって同時中継した。ホーチミン医科薬科大学においては、本講義中継を国際セミナーとして取り扱い、多くの大学院生や教員が受講した。講義後は双方の参加学生及び教員によるディスカッションなどを行った。

⑧中間評価

事業が始まって3年目となる平成26年度は事業の中間評価を受ける年であった。これまでの事業実施状況を調書にまとめ、平成26年10月31日には日本学術振興会において大学の世界展開力強化事業プログラム委員によるヒアリングを受けた。本事業の取組みは「優れた取組状況であり、事業目的の達成が見込まれる」と、高く評価され、以下のコメントを受けた。

(コメント) 総括評価 S

本プログラムは、東京医科歯科大学の従前からの国際交流を受け継いでおり、タイ・インドネシア・ベトナムの3大学とコンソーシアムを形成することで、医療と歯科医療における東南アジアネットワークを構築し、異文化理解とその多様性を受容して各国の保健状況にあった対策を実践する優れた人材を育成することを目的としている。

東南アジアの相手大学との長い交流実績に基づき、我が国の医歯学領域の世界展開を強化するという考えを具体化したもので、派遣・受入のプログラムはいずれも双方向の単位互換を伴った協働教育を可能とし、その中に教員の交流を組み込むなど、プログラムを効果的に実施していることは高く評価できる。

数値目標を上回る学生受入や「5ヶ国語による基本歯科用語集」の作成をはじめ、東南アジア関係国との協調・交流体制の構築を通して「親身の指導体制」を目指した種々の活動が実施されており、誠実な取組は高く評価できる。

また、外国語力スタンダードの基準として TOEFL 等以外に医歯学領域に係る独自の英語試験の実施や、長い交流実績に基づく元留学生のネットワークを活用した、現地で派遣学生を支援する体制の構築など、きめ細かな配慮がなされている。

外部評価委員の構成の明確化を通じて独立性を担保するなどの工夫がなされ、更に派遣及び受入前後に学生に対してアンケート調査を実施し、その結果を取組改善やプログラム立案にフィードバックしている点は高く評価でき、本プログラムの事業目的の達成に向けて、実現可能性を高めている。

⑨平成26年度合同シンポジウム・採択大学連絡会参加

大学の世界展開力強化事業に採択されたASEAN対象プログラム及びAIMSプログラムの採択大学連絡会と合同シンポジウムが2回開催され、本学の世界展開力強化事業に関わる教職員が参加した。第1回採択大学連絡会は平成26年7月30日(火)、京都大学(京都)で開催され、本学からは川口陽子教授、石田雄二特任助教、柴田真希の3名が参加し、本学の事業への取組概要などを紹介した。第2回採択大学連絡会は平成27年2月13日(金)、虎ノ門(東京)で開催され、竹原祥子特任助教、柴田真希の2名が参加した。事業の推進状況や各大学が抱える課題や今後の展望などを話し合うなど、有意義な情報交換ができた。

2-2-4. 東南アジアにおける医歯学教育研究拠点推進事業

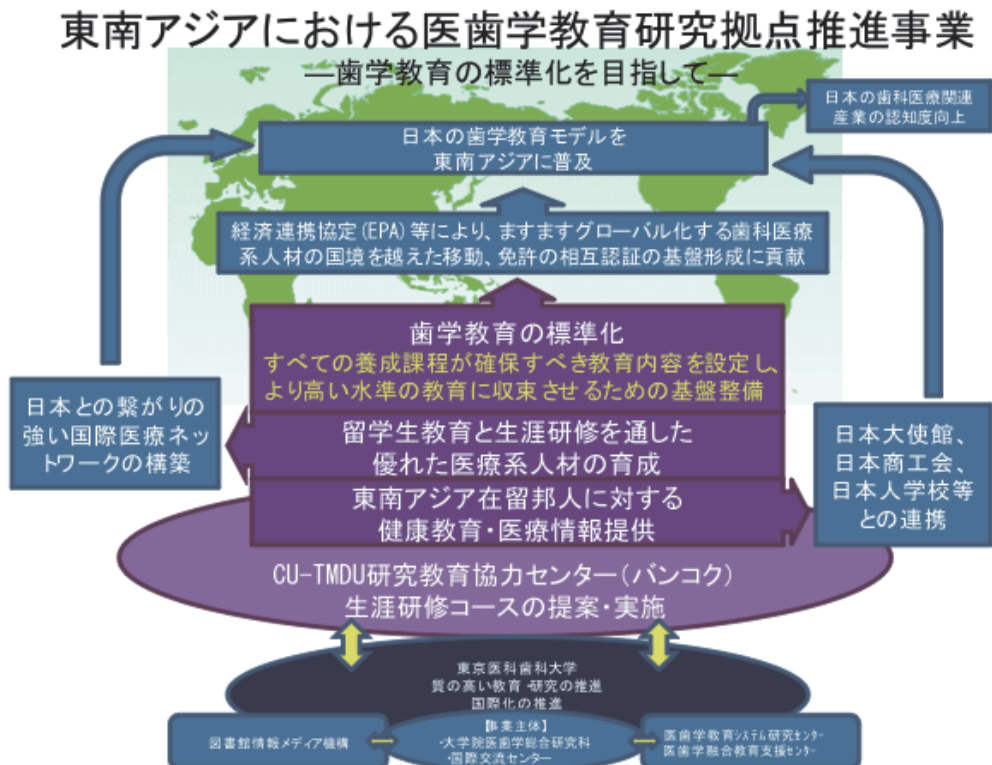
-歯学教育の標準化を目指して-

【事業概要】

本事業は、東南アジアに医歯学教育研究拠点を形成することで、先進的な共同研究、双方向の研究者・学生交流を通じた東南アジアにおける医療ネットワークの構築を推進すると共に、歯学教育の標準化を視野に入れた医歯学教育研究の国際的な展開を目指すものであり、平成24年度から4年間の予定で行われる。

本学歯学部・大学院医歯学総合研究科は、タイとの間で平成8年から17年の10年間にわたる拠点大学交流（歯学）事業を実施するなど、共同事業に取り組むとともに、これまで多くの留学生をタイから受け入れてきた経緯を持つ。平成21年11月にチュラロンコーン大学長と本学学長によって交わされた合意書に基づき、チュラロンコーン大学ー東京医科歯科大学研究教育協力センターを、平成22年11月23日にチュラロンコーン大学歯学部内に設置した。同センターが中心となり、また国際交流センターと大学院医歯学総合研究科が実施主体となって、本事業の五つの取り組みを推進する。

- ①東南アジアの歯学教育の標準化に向けた取り組み
- ②東南アジア歯科医療従事者に対する生涯研修コースの提案・実施
- ③東南アジアからの留学希望者に対する留学情報提供
- ④東南アジア在留邦人や日本人学校に対する健康教育や医療情報の提供
- ⑤情報通信システムの整備



【本年度の成果】

①東南アジアの歯学教育の標準化に向けた取組み

- 平成26年10月28-31日の日程で「歯学教育標準化委員会及び情報交換会 “Development of Dental Education in Asia 2014”」を開催し、東南アジア諸国連合（ASEAN）加盟国10カ国から歯科評議会関係者12名を招聘した。委員会は、本学の歯学教育についてのプレゼンテーションに始まり、さらに招聘講師2名による2015年の共同体設立に向けたASEANの歯科医師免許相互認証の枠組みや欧州共同体（EU）の歯科医師免許相互認証の現状についての講演が行われ、ASEAN共同体域内の歯学教育標準化の必要性やアジアの歯学教育の方向性等を協議事項に、東南アジアにおける歯学教育の標準化に向けた情報・意見交換の場となった。



ASEAN共同体域内の歯学教育標準化の必要性やアジアの歯学教育の方向性等を協議事項に、東南アジアにおける歯学教育の標準化に向けた情報・意見交換の場となった。

10月30日に情報交換会として株式会社ナカニシ本社（新鹿沼）を訪問し、世界トップクラスの歯科材料精密加工技術と最新鋭の生産設備を見学し、研究員との意見交換を行なった。

②東南アジア歯科医療従事者に対する生涯研修コースの提案・実施

- 平成26年6月22-23日にナレスワン大学歯学部にて元留学生を含む矯正歯科学分野の教員及びナレスワン大学歯学部6年生40名を対象とした講義と、元留学生を含む教員及びナレスワン大学歯学部4年生60名を対象とした講義を以下のとおり実施した。



- (1) An orthodontic perspective of long-term care for cleft lip and palate patients

森山啓司歯学部長（顎顔面矯正学分野）

(2) Oral health promotion activities in Japan

川口陽子教授（健康推進歯学分野）



- ・平成26年7月14-15日にCU-TMDUセンターにて元留学生を対象とした、シミュレーション教材を用いた生涯研修・シミュレーション教材作成ハンズオンセミナーを実施した。（木下淳博教授（図書館情報メディア機構長））



- ・平成27年1月7日に35th Myanmar Dental Conference・16 FDI-MDA Joint Educational Meetingにて生涯教育セミナー“Fresh Breath Clinic-Diagnosis, treatment and prevention of oral malodor”を実施した。（川口陽子教授（健康推進歯学分野））

③東南アジアからの留学希望者に対する留学情報提供

- ・平成26年8月11-14日にマレーシアのボルネオ島のサラワク州クチン市で行われた「第28回国際歯科研究会東南アジア地区年次大会（The International Association for Dental Research (IADR) Southeast Asian Division 28th Annual Scientific Meeting）及び第25回東南アジア歯科医学教育学会年次大会（Southeast Asian Association for Dental Education (SEAADE) 25th Annual Scientific Meeting）」（IADR-SEAADE）に本学大学院医歯学総合研究科博士課程（歯系）留学相談ブースの出展を行い、留学相談を行うと共に本学への留学勧奨に努めた。本学への留学に関心のある人やTMDU同窓生など、多数の訪問者で賑わった。



- ・平成27年1月31日から2月2日までタイのバンコクで行われた「The 6th International Congress on Adhesive Dentistry」(IAD) に本学



大学院歯学総合研究科博士課程（歯系）留学相談ブースの出展を行い、留学相談を行うと共に本学への留学勧奨に努めた。

④東南アジア在留邦人や日本人学校に対する健康教育や医療情報の提供

- ・平成26年5月31日にバンコクの在留邦人を対象とした「東京医科歯科大学第3回海外公開講座『家族の健康セミナー・歯科個別相談会』」（巻末 **資料1**）を開催した。海外生活での健康不安が少しでも解消するよう、がんの予防や睡眠時無呼吸症候群について、また、歯並び（矯正）についてのセミナーを行い、また歯科に関する個別相談をプライバシーに配慮した会場で行なった。



⑤情報通信システムの整備

以下の情報通信システムによる、録画した内容をオンデマンド配信するシステム等を活用した。

(1) 同時中継講義システム一式

CU-TMDUセンターと本学内に設置されている同時中継講義システム（TV会議システム）について、利用申請・報告等の手続きを整備した。

本年度の運用実績は以下のとおり。

- (ア) 平成26年7月14日：シミュレーション教材を用いた生涯研修セミナー 事前確認
- (イ) 平成26年7月15日：シミュレーション教材を用いた生涯研修・ハンズオンセミナー
- (ウ) 平成26年8月13日：世界展開力強化事業CUとの打合せ
- (エ) 平成26年8月20日：世界展開力強化事業（保健衛生学科）研修中間報告会
- (オ) 平成26年9月3日：世界展開力強化事業（歯学部）研修中間報告会
- (カ) 平成26年10月24日：大学院歯髄生物学分野セミナー中継
- (キ) 平成26年11月28日：大学院歯髄生物学分野セミナー中継

2-2-5. 日本の医療国際展開促進事業

(日本式大腸がん検診システム普及プロジェクト)

報告は以下のとおり。

①背景

南米では近年、生活習慣の変化に起因するがん等による死亡率の増大が大きな社会問題となっている。中でも生活水準の向上や食生活の欧米化により大腸がんの増加が顕著で、ブラジルでは大腸がんの罹患率が急激に増大（1996年から2010年の14年間で76%増加）しているにもかかわらず、大腸がんの早期発見に対する取組みは未だ不十分である。

かかる状況下、「日本の医療機器・サービスの海外展開に関する調査事業」（以下、「実証調査事業」）において「日本式大腸がん検診システム普及プロジェクト」としてブラジル国における大腸がん検診システム普及に向けた実証調査を実施した。調査時の免疫学的便潜血検査陽性者の内視鏡検査受診率は、想定していた60%を超える70%以上であり、がんを含む症例発見率も想定していた0.3%を上回る0.5%以上と期待以上であった。その結果、日本式大腸がん検診の有用性・優位性が実証でき、現地の病院からは、更なる普及への期待の声が寄せられた。同国では、安価であるが正確性に問題があるとされている化学的便潜血検査による大腸がん検診が一部で実施されているが、上述の成果により、日本式大腸がん検診の普及促進に大いに期待が持てる。

ブラジルは一人当たりGDPが10,000米ドル以上と、一定水準を超えており、国民の健康意識の高まりに合わせ検診の普及が見込まれる。任意の民間保険への加入者も増加傾向で（2003年約3,000万人→2014年約5,000万人）、今日では国民の約25%が加入しており、企業の集団検診の可能性も出てきた。そもそも人口が約2億人と、市場としての魅力が大きい。ブラジルで国家レベルでの大規模な検診システム普及のためには、首都ブラジリアにおける実証調査と同時に、ブラジル政府・行政への折衝強化が重要であることも、実証調査事業を通じて認識するに至った。

②目的

代表団体である本学が中心となり、日本式大腸がん検診システムの診療技術と機材を“ひとつのパッケージ”として海外展開することで、日本の医療機器・材料メーカーの市場を創出し、国際競争力を高める。ひいては、医療分野におけるブラジルへの貢献事業として日本国のプレゼンスを更に高め、同国での本格普及はもとより、将来的には中南米全土での普及を目指す。

具体的には、実証調査の実施病院拡大による日本式大腸がん検診システムの有用性検証を継続する。これには、病理医や内視鏡医の実技指導・人材育成を現地で行える体制作りが重要である。そのため、本学、及びラスコンデス病院（チリ）内にあるLACRC（Latin American Collaborative Research Center；東京医科歯

科大学中南米共同研究拠点)の本学の医師による指導のもとに、現地医師に対する人材育成拠点作り及びトレーニングを実施する。将来的には、「日伯大腸がん検診トレーニングセンター」(仮称)をブラジル側と共同設立、運営し、日本国による支援成功モデルの象徴的なジョイントセンターとなるよう具体化を進めていく。

これらにより、ブラジルにおける大腸がんの早期発見及び死亡率低下につなげ、医療費の抑制という対象国における経済効果をも実現する。

③本年度事業の概要

(1) 現地病院での実証調査

本事業では、昨年度から実施してきた「日本式大腸がん検診システム」による現地医療機関での実証調査を継続、拡大して行い、本システムの有用性に対する現地での認識を確固たるものにする。なお、調査にあたっては、先行して実施しているチリにおける LACRC、及びラスコンデス病院を中南米諸国への日本式大腸がん検診システムの技術指導/人材育成の中核拠点として活用する。また本学の支援の下に検診実施の検討を進めているエクアドルの保健省パブロ・スアレス病院とも連携し協力して進めていく。更に、日系大手病院との連携を強化し、日本式大腸がん検診の普及促進への協力を取り付けていく。

(2) 免疫便潜血検査の特徴

更なる日本式大腸がん検診システムの有用性確立に向けて、ブラジル最大の病院であるダスクリニカス病院(サンパウロ市)での他国製便潜血検査試薬キットとの比較調査・データ化を行うことで、日本式検診システムの優位性を確固たるものにしていく。具体的には、日本式大腸がん検診の実施によるデータ収集及び結果分析を行うとともに、他国製便潜血検査試薬キットによる検診で収集したデータとの比較を行い、特に肝となる免疫学的便潜血検査陽性率、がんを含む症例発見率など大腸がんの早期発見に関する主要データを比較し、日本式大腸がん検診システムの優位性の裏付けを取っていく。

新規参加病院に対しては、次のステップで実証調査を実施する。

- A. 便潜血キットを配布する。
- B. 現地病院にて啓蒙活動、病院関係者への告知等により検診対象者を集める。
- C. 検診者に対して便潜血キットを配布し、回収及び診断を行う。併せて、検診者に検査キットを正しく使用してもらうために、使用マニュアルを準備する。
- D. 便潜血検査で陽性反応が出た検診者に対して大腸内視鏡検査を実施し、大腸疾患(がん、ポリープ等)を検査する。

(3) 日本式大腸がん検診のトレーニング

内視鏡/病理診断技術指導においては、本学のチリ拠点である LACRC を中心に内視鏡医、病理医、看護師の実務責任者への指導を行い、日本式の内視鏡/病理診断・分析を指導する。具体的には、LACRC での数日間のトレーニングを実施していくと共に、ブラジリアのデバセ病院には LACRC の医師を派遣し 1 週間程度の現地指導を行う。

(4) ブラジリア州政府への働きかけ

実証調査事業では、ブラジル南東部の拠点病院で事業を実施したが、今年度は、普及促進に向けてブラジリア州政府を巻き込み進めていくべく、首都ブラジリア市保健局及び現地有力病院と共同で、日本式大腸がん検診普及プロジェクトの立ち上げを図っていく。そのために、ブラジリア地区最大の病院であるデバセ病院を日本式大腸がん検診のモデル病院として日本式大腸がん検診を実施していくことを提案し、ブラジリア市、デバセ病院の合意のもとに、機材の整備、医師・看護師のトレーニング等を行う。デバセ病院をモデル病院とすることで、首都ブラジリア市及びブラジル中部地域での日本式大腸がん検診の普及促進を目指す。

(5) トレーニング施設の開設、実機設置

トレーニング拠点候補とする 2 病院（ブラジリア市のデバセ病院、ポルトアレグレ市のフガスト病院）に対して、最新のトレーニング用内視鏡機材を設置の上、トレーニングが実施できる体制を作る。すでに日本式大腸内視鏡検査を導入済みのフガスト病院の CEO 兼院長であるクラウディオ医師は、大腸内視鏡分野では中南米一の技術と知名度を有している。また、過去に広島大学で約 5 年間の内視鏡研修の経験があることから、日本式の内視鏡手技についても熟知している。以上の理由から、上述のデバセ病院に加え、フガスト病院もブラジルでの大腸がん検診トレーニングセンターの一つとして活用していく。

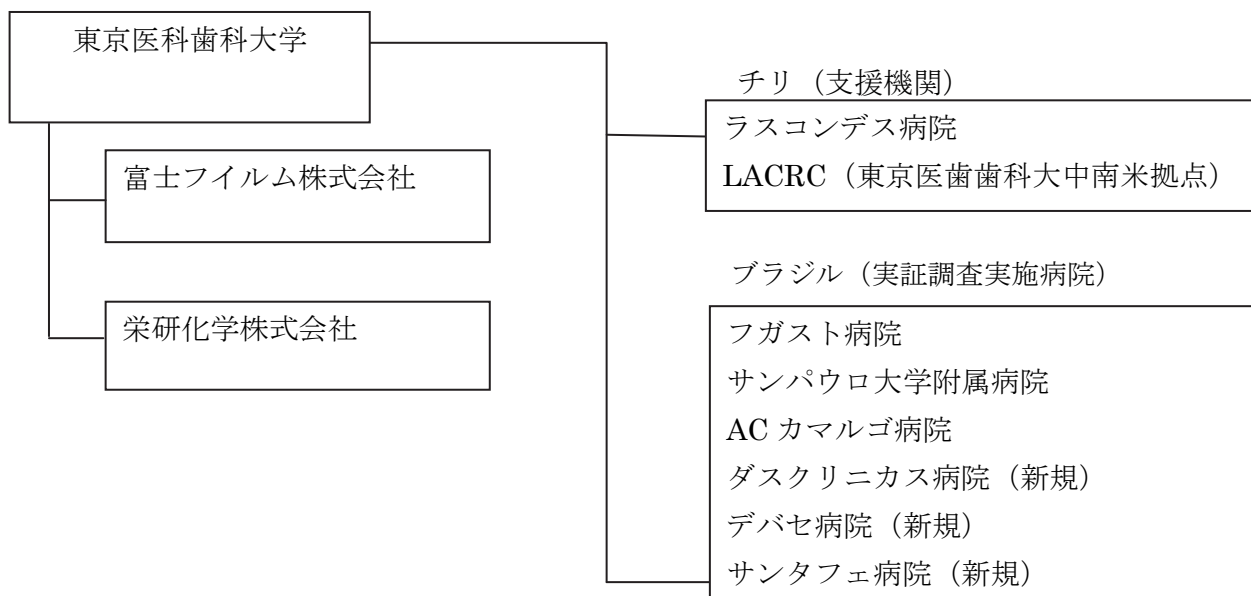
(6) 各現地病院で結果分析

各現地病院で実施した日本式大腸がん検診の結果として、免疫学的便潜血検査の陽性率、がんを含む症例発見率など大腸がんの早期発見に関する主要データを抽出し、また南米で先行して展開が進んでいるチリやエクアドルとのデータ比較を行い、日本式大腸がん検診システムの有用性を検証する。

④本事業の実施体制

代表団体 東京医科歯科大学
再委託先 富士フイルム株式会社、栄研化学株式会社

図表・1 コンソーシアム相関図



⑤結論 日本式大腸がん検診システムの有用性の確立に向けて

図表・2 各病院の検診データ

施設	日本式大腸がん普及プロジェクト (2014)							参考 (比較対象)		
	ブラジル							エクアドル (パブロスアレス)	チリ	日本 (2013年全国集計)
	ブラジル計 (A) + (B)	導入済み3病院(A)			新規3病院(B)					
		サンパウロ大	フガスト	ACカマルゴ	ダスクリニカス病院	デバセ病院	サンタフェ病院			
受診者数 (人)	5,307	3,242	948	960	52	50	55	5,495	7,859	6,900,548
便潜血陽性者数	352	160	92	94	6	0	0	322	1,035	395,215
陽性率(%)	6.6%	4.9%	9.7%	9.8%	11.5%	0.0%	0.0%	5.9%	13.2%	5.7%
精密検査者数	261	108	73	74	6	0	0	179	1,189	213,503
受診率(%)	74.1%	67.5%	79.3%	78.7%	100.0%	0.0%	0.0%	55.6%	100.0%	54.0%
発見大腸がん数	25	9	11	4	1	0	0	13	77	8,718
発見率(%)	0.5%	0.3%	1.2%	0.4%	1.9%	0.0%	0.0%	0.2%	1.0%	0.1%
陽性的中率	9.6%	8.3%	15.1%	5.4%	16.7%	0.0%	0.0%	7.3%	6.5%	4.1%
備 考	オート定量法 1日採便法	オート定量法 1日採便法	オート定量法 1日採便法	オート定量法 1日採便法	オート定量法 1日採便法	オート定量法 1日採便法	オート定量法 1日採便法	オート定量法 1日採便法	オート定量法 2日採便法 検便法には便器使用 を推奨	オート定量法 2日採便法

今回得られたデータを基に、既に南米で実証調査をしているエクアドル、チリにおけるデータ及び日本の検診結果との比較検証を行った。

本事業ではブラジルもエクアドル、チリ、日本と同様に自動法システムを導入して検討を実施した。ただし日本、チリでは採便法が2日法であるのに対しブラジル、エクアドルでは1日法であること等、現時点で単純な比較検討を行うことはできない。しかしながら、ブラジルにおける精密検査受診率は74%と高い数字を示しており、これは実施施設の受診者に対する啓蒙活動、宣伝が十分に効果を

発揮した結果である。大腸がん発見率も初回検診という条件はあるものの0.5%と高い確率を示している。また精密検査受診者の中から発見される大腸がんを評価する適中度も9.6%を示しており、精度の高い検診プログラムが実施された。

以上のように今回のブラジルにおける日本式大腸がん検診プログラムの実証調査は、国際的な比較においても精度よく効率的に大腸がんを見つけ出すことが可能であることが確認されたと言える。

3. 地域連携

3-1. 市川市内の学校との交流

市川市は、本学国府台キャンパスがあり、教養部で学ぶ一年次の学生が通学する地であると同時に、キャンパス内に国際交流会館、国際女子学生宿舎、里見寮を持つ。また、少なからぬ留学生が市川市に住むなど、本学及び本学留学生と関係の深い地である。市川市への地域貢献活動の一環として、以下のような概要の活動を行った。

①一中フェスタ参加

目 的：一中フェスタの市民講師として留学生が中学生に自国について講義すること。

日 時：平成26年10月4日（土）

場 所：市川市立第一中学校

参加者：大学院11名（ベトナム1名 ミャンマー5名 モンゴル1名 タイ2名
ハイチ1名 エジプト1名）

引 率：大北葉子准教授

活動内容：本学の留学生2人が講師として参加し、自国の文化等の紹介を、パワーポイント等を使って行った。プレゼンテーションの後、二つのグループに分かれて、中学生と、英語と日本語で交流した。この「一中フェスタ」は、市川市立第一中学校が様々な分野の地域住民を講師として招き、中学生達は講演を聴講したり、講演の後に質疑応答したりすることを通して、相互理解を深め、見聞を広めることを目的としている。なお、この「一中フェスタ」は教養部（水野哲也教授）との合同で地域交流活動を行っており、水野教授には市川第一中学校との連絡で協力いただいた。国際交流センターからは大北葉子准教授が留学生11人を引率した。



②昭和学院小学校訪問授業

市川市の私立昭和学院小学校での留学生による訪問授業を行った。

概要は以下のとおり。

目 的：市川市の昭和学院小学校において、留学生が講師として自国について紹介し、地域貢献活動を行うこと。活動を通して、日本の小学生の学校生活を知り、小学生と親睦を図り、日本についての理解・親しみを深めること。また、

小学生が外国人留学生と交流の体験を持つこと。

日 時：平成26年7月4日（金）、9：50～14：30

場 所：昭和学院小学校 市川市東菅野2-17-1

参加者：平成26年度前期国際交流センター研修生12名

引 率：泉谷双蔵准教授

活動内容：昭和学院小学校5年生2クラスにて、午前・午後の2時限において、留学生が講義を行い、その後昼食を小学生とともに食べた。午後は小学生から日本文化についての紹介があり、小学生から歌を贈られた。



3-2. 千代田区内の学校との交流

千代田区は、本学駿河台キャンパスがあり、生体材料工学研究所等の施設が存在する。千代田区への地域貢献活動の一環として、以下の活動を行った。

目 的：千代田区立千代田小学校において、留学生が講師として自国について紹介し、地域貢献活動をする。活動を通して、日本の小学生の学校生活を知り、小学生と親睦を図り、日本についての理解・親しみを深めること。また、小学生が外国人留学生と交流の体験を持つこと。

日 時：平成27年2月20日(金) 10：30～14：50

場 所：千代田区立千代田小学校 東京都千代田区神田司町2-16

参加者：平成26年度後期国際交流センター研修生12名

引 率：大北葉子准教授、米本和弘助教

活動内容：千代田区立千代田小学校で午前は5年生が、千代田小学校や豆まきなど日本文化の紹介を行ったあと、多目的ホール及び教室で留学生が自国を日本語で紹介した。その後、給食を小学生とともに教室で食べた。午後は副校長の案内で小学校内を見学した。



4. 学内連携

4－1. 学生支援・保健管理機構事務部学生支援課

留学生オリエンテーション

新規に渡日する留学生に対して前期（4月18日、32人）と後期（10月17日、42人）に、オリエンテーションを開催した。昨年度と同様に、今年度のオリエンテーションにおいても、学内の学生に関係する諸センターについての紹介及び大学生活において必要な諸手続きについて説明した。本年度のオリエンテーションの内容は巻末（**資料2**）に掲載する。

インペリアルカレッジからの留学生へのオリエンテーション

また、本年度も、大学間交流協定を結んでいるインペリアルカレッジから学生を5名、聴講生の身分で受け入れた。期間は3月9日（月）～5月22日（金）。それに先立ち、巻末の要領（**資料3**）でオリエンテーションを3月5日（木）に開催した。

4－2. 学務部入試課

ISP特別選抜

国際サマープログラム（International Summer Program, ISP）は、平成21年に本学を世界に広くアピールすることを目指し、また、アジアの優秀な外国人留学生の確保及び留学生の受験機会拡大を図るために開始された。平成23年度には新たな試みとして、本学大学院医歯学総合研究科(博士課程)の特別選抜入試を学務部入試課と連携の下、実施した。平成24年度は、ISPの募集段階から入試を希望する特別選抜枠と入試をしない一般枠に募集区分を設定した上で募集を行い、選考を行った。また、特別選抜枠での招聘者がISP参加終了後に受験することが可能となるようISP終了日の翌日に入試を実施した。本入試の対象者は、本プログラムに招聘された者で、医学領域・歯学領域・生命理学領域・生体工学領域に関する高度な学識及び実務能力を持ち、さらなる関心と研究への強い意欲を有している者として選抜を実施し、平成26年度は、特別選抜枠で招聘した15名に対して入試を行い、そのうち2名が平成27年4月に入学し、1名が平成27年10月に入学予定である。

5. 教員紹介

(日本語・英語教育等担当教員)

●泉谷双蔵(准教授 言語学博士)

1. 専門分野：日本語・英語の構文論（統語論）と音韻論
2. 国際交流センターでの業務：日本語教育、地域交流
3. 担当授業：日本語研修コース、日本語補講クラス
4. 学生指導
 - ①チューター研修会の立案と実施
 - ②民間奨学金に関する業務（学内推薦者の選抜、面接指導等）
5. 学内運営
 - ①国際交流センター連絡会議
 - ②奨学金小委員会
6. 研究：日本語、英語及び言語一般に関する統語論と音韻論

●大北葉子(准教授 日本語学博士)

1. 専門分野：日本語教育、認知神経科学、eラーニング
2. 国際交流センターでの担当業務：
ランゲージコーディネーター、Webマスター（ホームページ更新、留学生メーリング
リスト名簿管理とメールの送信）
3. 授業担当：
語学プログラム：日本語研修コース、日本語クラス（中級、医療用語）
お国紹介：（学生募集、プレゼンテーション支援、司会）
日本文化紹介：年中行事（七夕、鏡開き、節分、ひな祭り）の説明
学生相談：日本語（クラス選択）、分野変更、病気、送金、奨学金面接練習、書類翻
訳（国民健康保険税免除申請、請求書、配達不在票 等）
学部教育：日本語Iabcd

●David Richard Cannell (Associate Professor)

1. 専門分野/Specialty :
Japanese Literature and History
East Asian Languages and Literatures
2. TMDU及び国際交流センター業務
 - ・ Inter-university and intra-university institutional and business communications conducted in English
 - ・ Moderation of English-language ceremonies, conferences, workshops, etc., held on the TMDU campus

- Production and editing of university-related English-language documents
- Promotion of English-language infrastructure within the university
- Assessment of English-language skills of faculty and students

3. 授業担当/Lecture

- Japanese Literature and History
- Science Reading & Discussion
- Academic Presentations: Sharpening Your Skills
- English-language advisor to President Yasuyuki Yoshizawa
- English-language advisor to Professor Yujiro Tanaka, Executive Director
- Initial Research Training: Research Writing and Presentation
- Guest lecturer for IEC Lecture Series on Japanese Society and Culture

4. 学生指導/Student advising

- Advise students during office hours
- Advise foreign students on matters related to university life and living in Japan
- Cultural activities for foreign students

5. 研究/Research

- Japanese literature and history, esp. Early Modern Era (Edo/Tokugawa)

●米本和弘（助教）

1. 専門分野：日本語教育、教育社会言語学、応用言語学

2. 国際交流センターでの担当業務：

①日本語教育、留学生支援

- 日本語研修コースの指導
- 日本語補講クラス（B1, B2, BR）のコーディネート、指導
- 奨学金申請補助、生活相談

②外国人留学生オリエンテーション

- 手続き等に関する説明

③世界展開力強化事業に関わる業務

- サバイバルジャパニーズの企画、実施
- 基本会話集の作成

3. 研究業績

①論文

- (1) 久保田竜子・瀬尾匡輝・鬼頭夕佳・佐野香織・山口悠希子・米本和弘（2014）
「余暇活動と消費としての日本語学習—香港・ポーランド・フランス・カナダにおける事例をもとに—」第9回国際日本語教育・日本研究シンポジウム大会論文集
編集会編『日本語教育と日本研究における双方向性アプローチの実践と可能性』

(pp. 69-85) ココ出版

- (2) Senoo, Y., & Yonemoto, K. (2014). Vocabulary learning through extensive reading: A case study. *Canadian Journal of Applied Linguistics*, 17(2), 1-22.

②予稿集

- (1) 米本和弘 (2014) 「Flipped Learningを取り入れた音声指導の試み」『第10回国際日本語教育・日本研究シンポジウム予稿集』(pp.495-499)
- (2) 米本和弘・野口雅樹・林寿子・津田麻美・山根典子 (2014) 「超音波映像を応用した日本語発音指導の可能性」『カナダ日本語教育振興会2014年度年次大会予稿集』(pp.248-257)

③発表

- (1) 津田麻美・米本和弘・林寿子 (2015) 「オンライン発音学習教材の効果と意義—音声言語学の成果を応用した教材の可能性—」全米日本語教育学会年次大会, シカゴ
- (2) つながろうねっと (2015) 「日本語学習・日本語教育の商品化と消費という視点から教室・学習者・教師を問い直す」言語文化教育研究学会第1回年次大会, 東京
- (3) 米本和弘 (2014) 「Flipped Learningを取り入れた音声指導の試み」第10回国際日本語教育・日本研究シンポジウム, 香港
- (4) 山根典子・野口雅樹・林寿子・津田麻美・米本和弘 (2014) 「超音波映像を応用した日本語発音指導の可能性」カナダ日本語教育振興会2014年度年次大会, モントリオール

④その他

- (1) 米本和弘・津田麻美 (2014) 「UBCにおける日本語教育活性化と共有の取り組み」『CAJLE Newsletter』48, 10

4. 学会活動等

①カナダ日本語教育振興会

- ・ 理事
- ・ 年次大会実行委員

②香港日本語教育研究会

- ・ 学会誌海外編集委員

(歯学分野教育等担当教員)

●福井雄二 (特任講師 歯学博士)

1. 専門分野: 歯科補綴学

2. 国際交流センターでの担当業務:

①東南アジアにおける医歯学教育研究拠点推進事業「歯学教育の標準化を目指して」に係る業務

(1) 歯系大学院紹介パンフレット改訂

(2) バンコクでの第3回海外公開講座「家族の健康セミナー・歯の健康相談会」運営

(3) 本学歯学部 of 学術交流協定業務補佐 (タイ王国ナレスワン大学歯学部との協定更新)

(4) 東南アジア歯科医療従事者等に対する生涯教育コースの実施補佐

(5) 海外訪問者対応 (歯学系)

3. 学内運営:

①東南アジア歯学教育連携推進専門委員会学内委員

②歯学部教育シミュレーション作成作業部会員

4. 研究業績:

①学会発表

(1) 關奈央子, 福井雄二, 須永 昌代, モロス・ジャネル, 木下 淳博, 森尾 郁子: 英語による医療面接に関するインタラクティブ教材の開発. 第33回日本歯科医学教育学会総会および学術大会, 福岡, 2014年7月4-5日

●Sadr Alireza (Junior Associate Professor)

1. 専門分野/Specialty: Cariology and Operative Dentistry

2. 国際交流センター業務: Inter-university Exchange Program, IEC Outreach Activities (FY 2014)

3. 授業担当/Lecture: Cariology and Operative Dentistry Graduate Students lecture: Fundamentals of OCT for dentistry Mechanical testing of biomaterials by nanoindentation

4. 学生指導/Student advising: Several PhD students Cariology and Operative Dentistry as a primary, secondary or consulting advisor

5. 海外派遣/Foreign correspondence: Recruiting international graduate students (PhD program) for TMDU

6. 研究/Research: Molecular Science in Tooth and Bone Diseases. The field of research involves characterization of dental hard tissue and biomaterials. I have also been enthusiastically investigating non-invasive diagnostic modalities in dentistry. I have authored and coauthored over 100 full-length research publications, and

received funding consecutively from the Japanese Society of Promotion of Science (JSPS).

I joined IEC in 2014 and participated in outreach activities in an effort to promote the international presence of TMDU.

●竹原祥子（特任助教 歯学博士）

1. 専門分野：予防歯科学

2. 国際交流センター運営に関わる業務

①世界展開力強化事業に関わる業務

- (1) 「インドネシア歯科研修プログラム 2014」(H26 年 8 月 27～9 月 8 日)の企画、教員としての参加および報告書作成。
- (2) 「TMDU 歯科研修プログラム 2014 秋」(H26 年 10 月 13～26 日)の企画、運営、学生指導、および報告書作成。
- (3) 国際シンポジウム IV「国際交流プログラムを通して学んだこと、考えたこと」報告書作成。
- (4) 国際シンポジウム IV に参加した本学学生対象にアンケート調査実施・分析。
- (5) 国際セミナーVII「世界の口腔保健の最新トピックス」の企画と司会担当。
- (6) 学年混合セミナーでの講義担当 (H26 年 4 月 10 日)。
- (7) インドネシア日本人幼稚園における歯科健康教育の企画および実施。
- (8) ボーダレス講義のホーチミン医科薬科大学への TV 会議システムを使った放映。
- (9) 本事業ウェブサイトの管理とデータ更新。
- (10) 事業の進捗状況に関する中間評価のための調書作成。
- (11) 「五ヵ国語歯科用語集」の改訂版作成。

3. 学生教育

歯学科 3 年生「口腔疾患の予防（実習）」ライター

4. 学会発表

- ①長岡玲香、大城暁子、竹原祥子、古川清香、植野正之、川口陽子：口腔保健医の質評価指標について、第 63 回日本口腔衛生学会および総会、熊本市民会館、2014. 5. 29-31.
- ②大貫茉莉、竹原祥子、長岡玲香、植野正之、川口陽子：中学生を対象とした味覚調査について、第 63 回日本口腔衛生学会および総会、熊本市民会館、2014. 5. 29-31.
- ③竹原祥子、森尾郁子 川口陽子 荒木孝二 田上順次：歯科学生を対象とした国際交流に関する調査、第 33 回日本歯科医学教育学会総会および学術大会、北九州国際会議場、2014. 7. 4-5.

●石田雄之（特任助教 歯学博士）

1. 専門分野：矯正歯科学

2. 国際交流センター運営に関わる業務

①世界展開力強化事業に関わる業務

- (1) 「TMDU歯科研修プログラム2014」(平成26年10月13～26日)の企画、運営、学生指導及び報告書作成。
- (2) 「タイ歯科研修プログラム2014」(平成26年8月29日～9月7日)の企画、引率教員としての参加及び報告書作成。
- (3) 「ベトナム歯科学術交流セミナー」(平成26年4月)の企画、実施及び報告書作成。
- (4) 「Dental scientific conference at HCM city」における改良型超弾性NiTiワイヤーワークショップ企画実施(平成26年4月)
- (5) 「ホーチミン医科薬科大学への大学院生派遣」の企画、引率教員としての参加(平成26年4月)
- (6) TV会議システム(対インドネシア、ベトナム、教養部)の運用。

3. 学生教育

- ①モジュール「包括臨床実習」ユニット「包括臨床実習Phase II」ライター
- ②モジュール「学年混合セミナー」ユニット「海外留学と海外交流」講義

4. その他

- ①「Customized super elastic wires step by step hands on」ハンズオンセミナー(King Abdulaziz University)の企画、実施準備

(グローバルキャリア支援室所属教員)

●高田和生 (教授、医学博士)

1. 専門分野：膠原病・リウマチ内科学、医学教育
2. 国際交流センターでの業務：スーパーグローバル大学創成支援事業及びグローバル人材育成推進事業の実務（教育関係及び国際関係組織改革・カリキュラムの企画・運営・改善）
3. 担当授業：
 - ①医学部医学科
 - (1) 第1学年「医学導入」科目
国際医療/Professionalism シリーズオリエンテーション
卒前留学の意義
 - (2) 第3学年「皮膚・アレルギー・膠原病ブロック」科目
Team-based learning
 - (3) 第5学年「臨床実習Ⅰ（プレクリニカル・クラークシップ（PCC）」）科目
臨床推論導入
 - (4) 第5学年「臨床実習Ⅲ」科目内、「CC 総論」（1コマ）
オリエンテーション
 - ②Health Sciences Leadership Program
 - (1) 「医療リーダーシップ特論Ⅰ」科目
4. 学生指導：
 - ①Health Sciences Leadership Program 履修生メンター担当
 - ②FOCUS course 履修生メンター担当
 - ③医学科縦断チュートリアル担当教員
 - ④医学科教育委員として適宜学生指導を提供
5. 学内運営：
 - ①医歯学融合教育支援センター長として、センター業務運営管理及び人事を行う。
医歯学融合教育支援センター運営委員会委員長として同委員会運営にあたり、医歯学融合教育推進委員会委員長及び教育推進協議会委員として本学における医歯学融合教育の推進にあたる。
 - ②グローバルキャリア支援室長として、支援室業務運営管理及び人事を行う。
グローバル人材育成推進事業推進委員会副委員長、教育推進協議会委員として、本学におけるグローバル人材育成の推進にあたる。
 - ③医学科教育委員会委員として、医学科カリキュラム運営/調整にあたり、
医学科の国際交流協定校の新規、継続及び GHLO 契約等の国際交流推進にあたる。
 - ④医学科クリニカル・クラークシップワーキンググループ委員長として、臨床実習カリキュラムの調整を行うとともに、評価/改善にあたる。
 - ⑤医学科カリキュラム評価改善ワーキンググループ委員としてカリキュラム評価改善活動を行う。
 - ⑥統合教育機構 WG 委員及び統合国際機構 WG 委員としてスーパーグローバル大学

創成支援事業のガバナンス体制強化の検討を行う。

6. 研究：

①膠原病・リウマチ内科分野

(1) 多発性筋炎・皮膚筋炎に合併する間質性肺炎に対するタクロリムスの臨床試験

②医学教育・医療人材育成分野

(1) 次世代の医療ニーズ同定のための調査と研究

(2) 次世代の医療ニーズに即した医師・歯科医師及び生命科学研究者育成のための教育カリキュラムの研究

(3) 医療専門職種間連携及びそのための教育カリキュラムの研究

(4) 医療専門職種間連携のための学習方略の開発と運用

●Janelle Moross (Associate Professor)

1. 専門分野/Specialty

- ・医学英語教育
- ・看護英語教育

2. 国際交流センター/グローバルキャリア支援室業務

- ・グローバル人材育成推進事業に関する授業カリキュラムの企画・運営・改善

- ・Writing lessons for the following classes:

Medical Introductory Course, Global Communication I, II, III

保健衛生学科・口腔保健学科の専門英語教育

ASSERT/FOCUS

TOEFL 夏春集中特訓コース

Organizing/Instructing Global Communication Workshop

Organizing/Advising Waseda/TMDU Discussion Cafe

Advising Health Sciences Leadership Program

- ・非常勤講師：responsible for hiring, firing, scheduling and faculty development
- ・早稲田大学との教育連携事業（ディスカッション カフェ）企画・運営

3. 授業担当/Lecture

①Medical Introductory Course (substitute)

②Global Communication I, II, III (substitute)

③口腔保健工学概論

④口腔保健学科：科学英語 I

⑤保健衛生：English for Health Care Sciences

⑥看護英語演習

⑦Health Sciences Leadership Program

⑧FOCUS (5th year 海外派遣)

⑨ASSERT (4th year 海外派遣)

⑩TOEFL 夏春集中特訓コース

⑪Global Communication Workshop

4. 学生指導/Student advising
 - Mentoring for HSLP students
 - Mentoring for FOCUS students
5. 学内運営/University operation
 - English naming of organizational chart
 - Rewriting of brochure texts
 - Promotion of courses at events
6. 病院/Hospital
 - English naming of departments, help with websites, pamphlets, etc.
 - Proofreading of text, PowerPoint slides for presentations
7. 海外派遣/Foreign correspondence
 - 学生支援・保健管理機構事務部：proofreading (booklets, email, etc.)
 - 学務部教務課医学教務掛：英語電話面接
8. 研究/Research
 - 英語による医療面接に関するインタラクティブ教材の開発と評価、その応用性

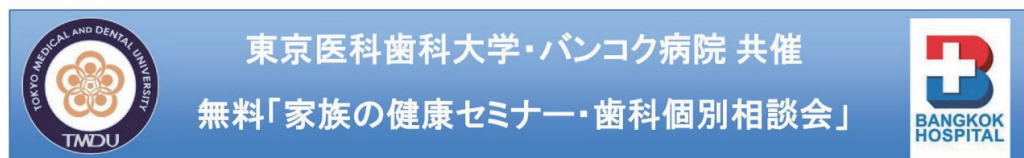
●**Rebecca Carlson (Assistant Professor)**

1. 専門分野/Specialty
 - ①Social Sciences; Anthropology, Sociology
 - ②Public/Global Health
2. 国際交流センター/グローバルキャリア支援室業務
 - ①グローバル人材育成推進事業に関する授業カリキュラムの企画・改善
 - ②Writing lessons for the following classes:
 - Global Perspectives 1
 - Leadership in Health Sciences 2
 - Leadership in Health Sciences 3
 - Leadership in Health Sciences 4
 - Leadership in Health Sciences 5
 - ASSERT
3. 授業担当/Lecture
 - ①Global Communication I, II, III
 - ②Global Communication Workshop
 - ③Health Sciences Leadership Program:
 - Global Perspectives 1
 - Leadership in Health Sciences 2
 - Leadership in Health Sciences 3
 - Leadership in Health Sciences 4
 - ④ASSERT
4. 学生指導/Student advising

- ①Mentoring for HSLP students
- 5. 学内運営/University operation
 - ①Promotional videos
 - ②Translation of promotional materials
- 6. 研究/Research
 - ①HSLP カリキュラムの企画・改善に関する教材の開発と評価、その応用性

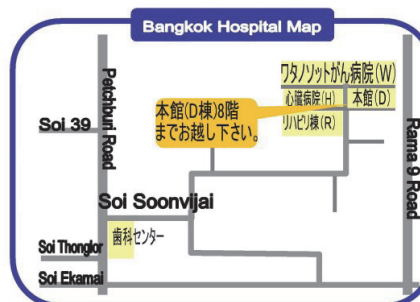
●春山 怜（特任助教）

- 1. 専門分野：産婦人科
- 2. 国際交流センターでの業務：
 - Health Sciences Leadership Program、国際教養特論II、IIIの授業運営
 - 海外臨床実習前準備コース（FOCUS）の授業運営
 - Brigham and Women's Hospital外国人招聘教員のスケジュール作成・活動調整
 - 第10回 TMDU-PHI リーダーシップコース参加
- 3. 学生指導：
 - Health Sciences Leadership Program 国際教養特論II（2014年4月～7月）
 - Health Sciences Leadership Program 国際教養特論III（2014年10月～2015年3月）
 - 海外臨床実習前準備教育 FOCUS（2014年9月～2015年3月）
 - グローバル・コミュニケーション（不定期）
 - 包括医療統合教育（2014年5月8日、9日）
 - 医学科第4学年 PCC総論医療面接実習（2014年4月3日）
 - 医学科第4学年 PCC総論医療面接実習（2014年12月4日）
 - 医学科第5学年キャリア形成講義（2015年3月6日）



このたびバンコク病院では、東京医科歯科大学と共催して日本語の無料「家族の健康セミナー・個別相談会」を開催します。日本とタイの最先端な医科歯科医療に携わる専門医の講演です。この機会にぜひ奮ってご参加ください。

開催日：2014年5月31日（土）
会場：バンコク病院



<家族の健康セミナー>

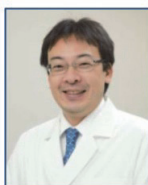
時間：14:00-17:00（13:30より受付開始）
会場：バンコク病院内 8D5会議室（D棟8階）
講演内容



第1部「がんの予防」

バンコク病院 ティラウッド・クハプレマー 医師

東京医科歯科大学医学部卒、日本国医師免許保持。消化器外科医。タイ帰国後はタイ国立がんセンターに勤務、2003年から2013年まで所長を務める。2014年1月よりワタノットがん病院の院長代行。日本とタイの医療の架け橋となるべく活動している。東京医科歯科大学客員教授。



第2部「睡眠時無呼吸症候群について」

東京医科歯科大学 宮崎泰成 医師

1990年東京医科歯科大学医学部卒業後、同呼吸器内科に所属し、間質性肺炎や睡眠時無呼吸症候群を専門に診療や研究を行っている。本年4月より学生支援・保健管理機構長。快眠センター長も兼務している。



第3部「歯並びについて知ろう～いつ始めるの、どう直すの～」

東京医科歯科大学 川元龍夫 歯科医師

1988年東京医科歯科大学歯学部卒業後、1992年東京医科歯科大学大学院（第2矯正学講座）修了。その後東京医科歯科大学助手、助教をへて、現在同大学大学院顎顔面矯正学分野講師。顎変形症の治療グループのチーフとして活動している。日本矯正歯科学会認定医、指導医。

参加費無料、予約必須。

なお、定員に達した場合は、ご予約を締め切らせていただきますのでご了承下さい。

申し込み方法：参加ご希望の方は1)参加者全員の氏名（ふりがな）2)代表者の電話番号

3)代表者のメールアドレスを下記までご連絡願います。

連絡先：バンコク病院ジャパン・メディカルサービス

Tel: 02-310-3257(毎日 7:00-20:00) Fax: 02-755-1261

E-mail: jpn@bangkokhospital.com



※裏面に個別相談会情報がございます※

＜歯科個別相談会＞

東京医科歯科大学の専門歯科医師が、歯のお悩みの個別相談に応じます。



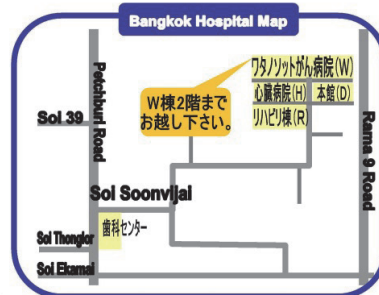
時間：10:00-12:00（完全予約制：お一人あたり10分程度）
 受付：バンコク病院内 ジャパンメディカルサービス（JMS）
 ※受付後、相談室へご案内いたします。

相談可能分野

一般歯科、小児歯科、矯正歯科、インプラント科、口腔外科、歯周病科



バンコク病院 ジャパンメディカルサービス（JMS）



参加費無料、予約必須。

なお、定員に達した場合は、ご予約を締め切らせていただきますのでご了承ください。

申し込み方法：参加ご希望の方は1)参加者全員の氏名（ふりがな）2)代表者の電話番号3)代表者のメールアドレス4)ご相談内容下記までご連絡願います。なお、治療は致しません。また、内容は東京医科歯科大学のメールへ転送され、ご連絡が東京医科歯科大学からありますので、ご了承ください。

その他：参加希望者から頂いた情報は、今回の相談会以外には使用致しません。

連絡先：バンコク病院 インターナショナルマーケティング部 倉田

E-mail: mai.ku@bangkokhospital.com



無料シャトルバス時刻表

トンローグランドタワーイン発

08.30 09.30 10.30 11.30 12.30 13.30
 14.30 15.30 16.30 17.45 19.15 20.30

フジスーパー1号店発

09.00 10.00 11.00 12.00 13.00 14.00
 15.00 16.00 17.00 18.30 20.00 21.00

地下鉄ペップリー駅1番出口発

06.30 07.30 08.30 09.30 10.30 11.30
 12.30 13.30 14.30 15.30 16.30 17.30
 18.30 19.30 20.30

お車で越しの方、ドライバーにお見せ下さい

กรุณาส่งผู้โดยสารที่โรงพยาบาลกรุงเทพ;
 2 ข. ศูนย์วิจัย 7 อ. เพชรบุรี ต. คลองใหม่

※ 裏面にセミナー情報がございます ※

オリエンテーション

Orientation

平成 26 年 4 月 18 日 (金) 1 : 30 p.m.~

April 18, 2014 (Friday)

1 号館西 6 階 歯学科演習室

Lecturer room, Building 1 West, 6F

- | | |
|--|---|
| 1. 保健管理センター紹介
(1:30-1:40 p.m.) | Information of the Health Service Center |
| 2. 学生・女性支援センター紹介
(1:40-2:00 p.m.) | Information of the Support Center for
Students and Female staff |
| 3. 国際交流センター紹介
語学プログラム紹介
(2:00-2:30 p.m.) | Information of International Exchange Center
and Japanese Language Courses |
| 4. 大学生活に必要な諸手続き
(2:30-3:00 p.m.) | Required procedures for new international
students' everyday life in Japan |

(休憩)

(Break)

施設見学

Campus Tour

3:20 p.m. 図書館 Library

4:00 p.m. 医学部附属病院又は歯学部附属病院 Medical or Dental hospital

懇談会

Welcome Party

5:15 - 6:30 p.m. グリルセインツ (1 号館西 9 階)

Grill SAINT (Building 1 West, 9F)

オリエンテーション

Orientation

平成26年10月17日（金） 1：45 p.m.～

October 17, 2014 (Friday)

M&D タワー2階 共用講義室1

Lecturer room1, M&D Tower, 2F

- | | |
|--|---|
| 1. 保健管理センター紹介
(1:45-2:00 p.m.) | Information of the Health Service Center |
| 2. 学生・女性支援センター紹介
(2:00-2:30 p.m.) | Information of the Support Center for
Students and Female staff |
| 3. 国際交流センター紹介
語学プログラム紹介
(2:30-3:10 p.m.) | Information of International Exchange Center
and Japanese Language Courses |
| | (休 憩)
(Break) |
| 4. 大学生活に必要な諸手続き
(3:30-4:20 p.m.) | Required procedures for new international
students' everyday life in Japan |
| 5. 各種保険について

(4:20-5:00 p.m.) | Insurance Information |

懇談会

Welcome Party

5:30 – 6:45 p.m. グリルセインツ（1号館西9階）

Grill SAINT (Building 1 West, 9F)

資料 3

インペリアルカレッジからの交換留学生へのオリエンテーション
(Orientation for Imperial College Exchange Students)

日 時 ; **2015 年 3 月 5 日 (木) 9 時 30 分～17 時 00 分**

09:30～11:50 集合 / オリエンテーション(場所 : M&D タワー8 階南 G-Lab)

- ・ 集合手続き、奨学金説明 (担当 ; 学生支援課 深川・古屋)
学務企画課にてネームカード作成、入寮書類作成、PHS・IC Card 他書類配布
- ・ 本学紹介、担当教員挨拶 (担当 ; 高田教授、若林助教)
他、日本での生活について英語のネイティブスピーカー教員との懇談
- ・ 日本での生活について英語のネイティブスピーカー教員との懇談
(担当 ; Moross Janelle 准教授、Carlson Rebecca 特任助教)

12:00～13:00 ウェルカムランチョン(場所 ; 医科棟 16 階 レストランメディアコ)

出席者 ; インペリアルカレッジ留学生 5 名

Mr. Prem Chouhan

Ms. Nina Dalton

Ms. Salma Haddad

Mr. Timothy Seers

Mr. Pietro Vassallo

本学教員 計 8 名

江石 義信医学部長

稲瀬 直彦医学科教育委員長

烏山 一教授(免疫アレルギー学分野)

浅原 弘嗣教授 (システム発生・再生医学分野)

寺田 純雄教授 (神経機能形態学分野)

三林 浩二教授 (センサ医工学分野)

石橋 哲助教 (脳神経病態学分野)

Moross Janelle 准教授 (インペリアルカレッジ交換留学
担当)

13:00～14:00 指導教員とプロジェクト詳細について打合せ、研究室見学等

16:00～17:00 本学ボランティア学生によるキャンパスツアー

- ・ 定期券購入の後、図書館やコンビニ、生協など紹介

東京医科歯科大学 国際交流センター
年報 平成 26 年度（2014 年度）

2015 年 11 月 発行

発行者 東京医科歯科大学国際交流センター
〒113-8510 東京都文京区湯島 1-5-45
